

三商同窓会報

ホームページアドレス

<http://tcsaa.jp/>



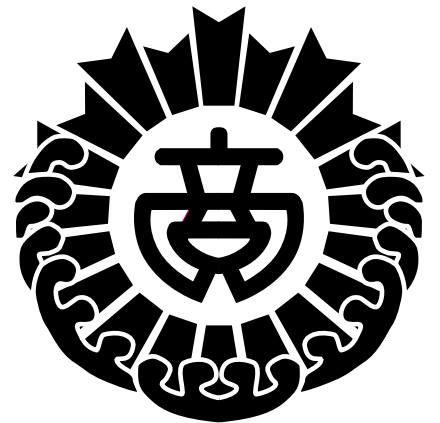
No.61

令和5年8月1日発行



令和5年度新年会 於 門前仲町東天紅

校 歌



作詞 前田 夕暮
作曲 山田 耕
編曲 脇 則之

都の空は明けたり、今
希望は燃ゆる若きわれら
都立第三商業、ここに拠るや
日本の富を担ふわれら

富岳の雪を望む窓辺
理想は高し、若きわれら
都立第三商業、ここに居るや
都の栄えを築くわれら

東都の海の門にありて
心は濶し、若きわれら
都立第三商業、ここに立つや
江戸の誇りを継げるわれら

応 援 歌

作詞 多田 宏
作曲 池内 友次郎
編曲 青山 政憲

見よ、三商の旗じろし
T・C・Sの行くところ
旭日洗ふ波がしら
ここに刻む若人の
勝算すでに吾にあり
頑張れ三商、頑張れ三商
(ふれっ・ふれっ・振れー)

聞け、三商の底ぢから
T・C・Sのはた風は
歴史が語るその誉れ
受け継ぎ来たる若人の
命の誇り吾にあり
頑張れ三商、頑張れ三商
(ふれっ・ふれっ・振れー)

見よ、三商の鉄の陣
T・C・Sの旗の下
正義に結ぶ和のこころ
明るく強き若人の
凱歌はすでに吾にあり
頑張れ三商、頑張れ三商
(ふれっ・ふれっ・振れー)



三商同窓会報 第61号 CONTENTS

校歌・応援歌		あの頃の身近な世相	高野 昇 27
目次		思い出のアルバム	高野 昇 30
—ごあいさつ—		あの日（中学生の時）	
同窓会会長	三浦康二 01	マッカーサー元帥を見た	高野 昇 33
都立三商学校長	山田和人 01	—同期会報告—	
第21期以降の卒業生皆様へ	篠崎 清 01	続…生涯青春!!と云う名の景色	古田勝一 34
—寄稿・エッセイ—		編集部からのお願い	35
企業の事業継承について	西方勇雄 02	—新年会開催—	36
私、還付金詐欺にあいました	岩瀬和子 05	令和6年度新年会のご案内	37
第29期同期会でのご縁		—三商会より—	
60年ぶりの再会をはたす	仲田元昭 06	公益財団法人東京三商会 理事長	杉本光男 37
黄泉に旅だった細田君を偲ぶ	高野 昇 07	編集後記	37
気ままなドライブ	杉本光男 10	—同窓会事務局より—	
第二回三希展（三人展）		活動報告、会計報告、予算他	38
が開催されました	水上健二 20	—広告のページ—	42
第22期生の皆さんへ	篠崎 清 26		
私、コロナにかかりました	岩瀬和子 26		

ごあいさつ

希望の平和をめざして



同窓会会長
第31期 三浦康二

今から43年位前に上映された映画に「二百三高地」というのがありました。

100年前の日露戦争で二百三高地を巡る攻防戦を描いたもので、極寒の中に最前線で絶望的な戦いを強いられた日本兵の惨状を描いている衝撃を受けた映画でありました。

その日露戦争から1世紀余りでの現在で、ロシアのウクライナへの侵略による市民の惨状はいまだに続いている。

空襲警報のおびえながらの厳しい生活にも未だに終わりが見えない。

戦争というものが悲惨で残酷なものであるという事は私達日本の戦争の歴史の中で充分に分かっている。

ここで今年の3月に行われた「あなたに贈りたい漢字コンテスト」で千葉市の小学校1年生の作品が大賞に輝きました。感慨したその作品を紹介したいと思います。

《かみさまへ、わたしより「止」。このかんじをあなたにおくりたいです。いませかいのみんなをこまらせるコロナとせんそうを止めてください。そして「止」に一本のせんをひいて「正」にかえて、せか

いを正しくもどしてください。せかいのみんながしあわせにくらせますように。》とすばらしいですね。私達同窓会も「正」しい世の中にするためにも皆で団結して小学校1年生に心配をかけないようにできる限りの努力をしていきたいものです。

私自身も、第二次太平洋戦争で父親を戦死するという、母一人子一人で生きてきた体験から心の底より平和を願いたいものです。

ご挨拶



都立第三商業
学校長 山田和人

初代校長・吉澤徹先生が掲げた「リトルゼントルマンを育成する三商教育」との教育方針、そして校歌の歌詞「都の空は明けたり今 希望は燃ゆる若きわれら 都立第三商業ここに拠るや 日本の富を担うわれら」に込められた言葉に、第二十二代校長として就任以来、二年目を迎えておりますが、日々、身が引き締まる思いでございます。

三商は、生徒達が希望に溢れ、互いに切磋琢磨し、日本ひいては世界の富、繁栄を担うべく、人のために尽くす人材を輩出する使命があると、痛感しています。

本年は、令和二年（二〇二〇年）からのコロナ禍を吹き飛ばすがごとく、生徒たちは、体育祭等の学校行事や学習活動に、コロナ前にも増して元気いっぱい取り組んでおります。

本年度の体育祭はこれまでは全校生徒を三つの団に分けて競っておりましたが、今回から五つの団に分

けて実施しました。運動競技のほか、応援合戦にも盛り上がりを見せ、全校生徒が歓喜にあふれる体育祭ができたと自負しているところであります。

レスリング同好会は、発足二年目ではありますが、すでに関東大会に二回出場しております。商業高校同士で競い合う大会においては、ワープロ競技、ビジネス計算競技といった競技で全国大会出場を決めるなど、目に見える形で日々の教育活動の成果をあげているところでございます。

これからは、さらに、足元を見つめ、新しい可能性の開花に主眼を置き、一人一人に生きる力、自信を与える教育を構築していく所存でございます。

今後とも、三商同窓会の皆様のお力をお借りしながら、「リトルゼントルマン、リトルレディ」を育成する三商教育を継承、発展させてまいります。どうぞ、お力添えのほど、宜しくお願い申し上げます。

第21期以降の卒業生皆様へのお知らせ

情報委員会 第22期 篠崎 清

皆様コロナに負けずお元気でお暮しの事と存じます。本年も同窓会報61号を皆様のご協力のおかげで発行することが出来ましたことを感謝いたしております。ただ残念なのは初回の19期特集に始まり20期特集へと順調に引き継がれましたが何故か今回は寂しい感じがいたしましたので調べてみましたら事前のお知らせが不十分であったことが判明しましたので反省し来年の62号は私ども22期の担当ですが21期の皆さんで原稿掲載をご希望の方は共同と成りますが参加してください。大歓迎ですのでよろしく願いたします。23期以降の皆さんも早めの準備をお願いいたします。

私、還付金サギにいました

第26期 岩瀬 和子
(旧姓坂口)

被害当時うちでは固定電話でした。突然、男性から電話がありました。「書類届きませんでしたか」と云われ、「私知りませんでした」と答えました。「メ切はすぎたんですが、出していない方に今電話しています。キャッシュカードで簡単に手続きが出来ます。どこの金融機関へ行かれますか」と云われ近くの信金を云うと、「銀行にしてください」と云われました。「みずほ銀行」と答えると「二人のカードを持って行って下さい」と云われたので「私、還付金なんてありません」と云うと「念の為持つて行って下さい」と云われました。私は還付金のことについて区役所へ電話しました。出た人に「〇〇さんお願いします」と云うと「そういう人はいません」と切られてしまいました。何課の何係と聞いていなかったなので仕方ないと思いました。後で還付金のことについて電話したのだから、いせんがどういうご用件ですかと聞いてくれていれば、未然に防げたのと思いました。

また件の男性から「みずほの者ですがどこの支店へ行かれますか」と聞かれ「本所支店」というと「お調べします」と云われました。「本所支店のATMは機械が古いので錦糸町の東武ホテルの横のATMへ行つてくれ」と云われました。

歩いて十五分位かかりましたが、お金が戻るといわれたので頑張つて行きました。着いて電話すると、二枚入れましたが確認が取れませんでしたと云われました。後で考えると二枚とも一万円位しか残金が

ありませんでした。

「他にカードありませんか」と聞かれ三菱UFJのカードを私だけ持っていたのでタクシーで行きました。着きましたと電話したら「アルカキットの一階に三菱のATMがあるので電話を切らずに行つて」と云われました。まるで隣にいるみたいな感じで、あそこを押して下さいとか指示され、定期ありませんかと聞かれ十万円あると云いました。こも残高が一万円位しかなかったんです。指示された通り九万八千円振り込まれましたが、私は全然気が付かず、家に帰り主人に九万円も戻ると云ったら、主人が半分くれと云い笑っていました。

しばらくすると三菱UFJ銀行から電話があり「変な振り込みがあるのですぐに記帳に来てくれ」と云われました。行くとベテランの女性行員の人から「すぐ交番へ行きましょう」と云われました。彼女とは別々におまわりさんに色々聞かれました。そこへ本署からパトカーで二人の刑事さんが見え本署へ行く」と云われ、途中我が家を表から裏から写真撮らせてくれと云われ、不思議でした。署につくと私も写真撮られ、いろいろ聞かれました。電話は止めましたと云っていました。ベトナム人だそうです。「刑事事件にしますか、被害者届にしますか」と云われどちらにしてもお金は戻りませんと云われたので、被害届にしました。パトカーで送られて帰ってきました。銀行から帰る迄二時間位かかりました。

翌日いつもの信金の人 came ので、話したら当社は保険に入っていると云われ、信金は地域に密着しているんだなあとと思いました。

サギにあった事を親しくしている区議に話しました。すぐ区役所に云つてくれたのか区役所の人に来て、手について謝られこの電話は防犯防止の為、通

話内容を録音しますというテロップの流れる器具を設置してくれました。そして留守電にしています。私がいて名前を聞いて知っている人は受話器をとります。

今でも一日一回くらいガチャツと切る電話があります。あと金具を叩く音が流れます。結構長い電話です。気味が悪く警察へ電話しましたが、止めようがないと云われました。

編集部より

前同窓会々長の岩瀬和子さんから、恥を忍び自身の詐欺被害の模様をご寄稿いただきました。

普段からお会いする機会も多いのですが、江戸っ子らしいちゃきちゃきとした立ち振る舞いで、物怖じしない性格の方です。

詐欺電話なんか掛かってきたら、相手に説教をして追い返してしまいそうな方が、意外にも被害にあわれてしまいました。

同窓生の皆さまも、対岸の火事と思わずにお気を付けてください。一度話を信用してしまうと、普段ではおかしいと思うような指示も、催眠術にかかったように犯人の思ったように行動してしまいます。

一番の予防策は、留守番電話です。

1、家庭の固定電話は留守番機能付きの物を使う事。
2、在宅中でも、掛かってきたら電話を取らずに、留守電機能で応答する事。

3、ナンバーディスプレイ式(相手の電話番号が表示される機能)付きも有効です。

4、相手が留守電に録音中の声で、家族や知り合いと分かった時点で、電話に出ることが出来ます。

5、煩わしいセールス電話にも効果的。

「第29期同期会での縁」
—60年ぶりの再会を果たす—

第29期 仲田 元昭

第29期同期会は第8回60歳から2年毎11月に開催、今回で17回目「卒業60年並びに傘寿祝い」最後となる同期会が令和4年11月17日東京ガーデンパレスで、コロナ禍にも拘らず79名が出席し盛大に開催された。

同期会は、コロナ禍での開催を考慮し、幹事団のご配慮により従来の同期会々場より広い宴会場を予約、事前に全員から近況報告を集め、当日欠席者を含む178名の立派な「近況報告集」が配付された。個別に適宜拝読し会話を少なくしようとの、幹事団の細やかな感染対策の気配りに感謝する次第である。

これまで多くの同期生との再会交流の場である同期会を継続開催された、幹事各位大変お疲れ様、心より感謝申し上げます。

さて、これまでの同期会を振り返り、私事ではあるが、会での素晴らしい縁をご紹介します。

平成23年11月開催の第12回同期会は、私にとって思い出に残る会となった。というのは、5組の戸田茂幸君が同じ組の林悦子さんに1組の仲田君も小学校が同じではないかと話をされたことから、林さんが小学校の写真を確認持参され、仲田さん小学校で同じクラスでしたねと同期会でお声をかけて頂き再会を果たすことが出来、思い出話に花が咲いた。クラス会は3回開催後17年間開催していないのと、会の再開を考えようとの話まで飛躍した。

そこで、1回だけと思い幹事役をお受けし、平成25年4月3日、「ホテルシーサイド江戸川」で再開

第1回目のクラス会を開催し、14名の参加を得て60年ぶりにクラスメートと懐かしい再会を果たすことが出来た。久しぶりの再会だが話している内に、すぐ皆さん子供の頃を思い出しお互いに打ちつけ懐かしい一時を過ごすことが出来た。毎年同じ日時・場所で開催、幹事も引き続き仲田君でお願いと決まり閉会した。

第2回クラス会以降もクラス仲間のご支援をいただきながら毎回趣向を凝らし、「けん玉大会」や「小学唱歌合唱」（歌詞とラジカセは牧師の山崎徹也君が持参）、「健康体操」等々企画し、昔を懐かしく思い出しながら楽しい会を毎年継続して開催している。第5回クラス会以降はクラスのスター的存在だった米国在住50年のW君の連絡先が分かり、はるばる来日され60年ぶりの再会を果たすことも出来た。その後は毎年来日され、会を盛り上げてくれている。

平成31年4月開催の第7回クラス会には、過去最高の18名の出席のもと、某大学院の客員教授であるK君の「環境問題」と米国より出席のW君の「米国の法務事情」と題しての講話を聴き、少し勉強した後で懇談に入った。これまでの人生や昔話



平成31年近況報告中の同期の林悦子さん

に花が咲き、最後に白旗赤旗上げゲームをやり1位と2位に米国よりオレンジを贈呈、盛大な会となった。またW君の発案で、クラスの枠を超えて交流の輪を広げ小学校・中学校まで連絡のつく、幼馴染との懇親会を開こうとのことになり、令和新時代の最初の月、5月に「幼馴染の会」として千葉県市川で有志が集まった。新たに5名の同級生と60年ぶりの再会も果たすことも出来た。

これまで、都合のついた旧友とは、名古屋1泊旅行やゴルフ懇親会を開催、夢のような楽しい交流を深めることが出来たが、令和2年4月開催の第8回「喜寿祝の1泊旅行クラス会」が、コロナ禍で中止になったことは、更に旧交を温めあおうと思っていた矢先で大変残念であった。

コロナ禍で3年間開催を休止していたが、コロナウイルス感染症が5類に引き下げる政府の方針が決まったことから、令和5年4月14日「第8回傘寿祝いクラス会」を「ホテルシーサイド江戸川」で開催



平成31年 環境問題の講話に聞き入る皆さん

した。今回も、はるばる米国在住50年（永住権取得）のW君や山口県在住のSさんは初めての出席と10名で4年ぶりの懐かしいクラス会を開催、旧交を温めた。

今年のクラス会では、「100歳時代、80歳の壁を乗り越えれば幸せな20年が来る」と題して某大学院客員教授のK君の講話を聴いてから懇親に入り、懇親の最後に米国産オレンジ（W君寄贈）の1位商品をかけてダーツ競技会では童心に戻りゲームに興じた。

閉会の挨拶でK君より、100歳時代に向け7人以上出席するまで会を続けようとお言葉で散会した。

クラスメートには、会社経営者、大学院客員教授、昭和39年世界技能オリンピック金賞受賞者（皇居にご招待）、牧師（褒章受章で皇居にご招待）、身障者施設事業運営（先日小池都知事と事業運営課題について面談）、介護ボランティア等々日本の高度成長と高齢化社会を支えてきた、いや今でも現役で頑張っている素晴らしいクラスメート達と、60年ぶりの思い出に残る再会を果たすことが出来、ご縁を賜った5組の

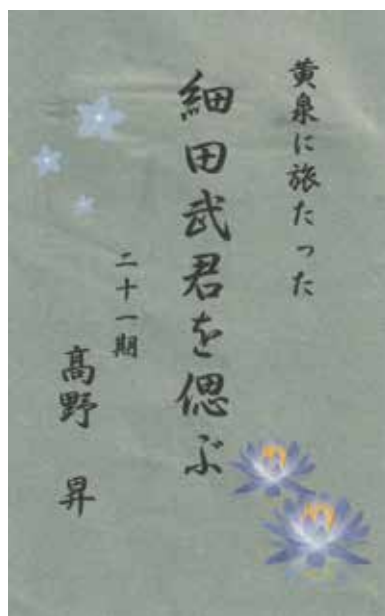
林悦子さん、戸田茂幸君の兩名と第29期同期会幹事各位には改めて心より御礼申し上げます。



令和5年 ダーツ競技会 童心に戻る

生諸子、人生100年時代、素晴らしい再会や新たな交流の輪が広がるチャンスもある同期会の定期的な開催継続と積極的な参加により、楽しい充実した第二の人生になることを願っている。

（令和5年4月吉日）



▼令和二年八月二十四日彼は永眠されました。「三商同窓会誌」や「同窓会ホームページ」に毎月小生共々寄稿していた盟友であり六十八年に亘る長い付き合いでした。二〇二〇年一月の同窓会ホームページに「骨髄性異形性症候群」であることを書き、翌月の同ホームページで「血液癌」であることを自ら寄稿していました。以前から肺のCOPDの治療も

受けていましたが、結果は、ご遺族はもとより私にとつても悲しい別れとなりました。

▼彼とは二年生（昭和二十七年）の時、同クラスとなり三年生の時も一緒に、彼は陸上部で活躍、以来の長い付き合いでした。彼は入谷の酒屋の長男、小生は亀戸の食料品店の倅、三年時のクラスは進学組、就職組、自営組の混合クラスでいろいろな個性溢れるクラスメイトが居り、銀行員、建設会社、石油系などに就職、公認会計士、学士院会員の野中君（一年生の時同クラス）とか、三年時の同クラスには上場一部企業に自ら立ち上げたユニデンの創設者藤本君などの同輩もいて、多才な人材の卵が多数おりました。小生は銀行「日本長期信用銀行」に内定していたのをなぜか今村校長、清田教頭から急遽指示され江商（現・兼松）と言う総合商社会社を受ける様に言われ、江商は三商生と一商の生徒しか採用しないとの事で『がんばってこい』と私が指名され同窓（他クラス）と二人が改めて受験、私のみ内定の通知を受け、多分珠算検定一級に合格していたのが功を奏したものと思っていました。日本長期信用銀行には丁重にキャンセルさせてもらったと、清田教頭がわざわざ我が家を訪れ両親の了解を得ていました。

▼それより以前の昭和二十六年、私が三商に入學した四月に上の兄（十六期生）が大学に入り司法試験に挑戦するために旧制中学五年（府立三商）で卒業、三菱レイヨンに勤務していたのを退職し一年間の浪人資金、入学後の学費などを稼ぐため実家の裏手で珠算塾をはじめ、三商に通学しながら兄の整を手伝っており、したがって部活も出来ず「帰宅部」でした。塾の生徒が増え兄一人では捌ききれず、そんな中、杉原勇太郎先生が亀戸の我が家をわざわざ訪

れ「三年生の就職組の中でどうしても珠算三級を獲らせねばならず、総武線沿線で通学している生徒を五人ほど高野兄弟で指導、練習させ合格できるように指導して欲しい」と懇願され兄は快諾、私は学校での上級生を言われるままに指導補助に勤め、結果は全員見事三級合格、その中の一人は大手ゼネコンに入り定年まで勤務先の重責を担う部長を務めあげていました。兄はその数年後、司法試験と公認会計士に合格し、その時の清田先生と勇ちゃん先生の嬉しそうな顔、あの時の様子は兄との語り草となりました。

▼自分の事はさておき、細田君とはなぜか気が合い、



話をしているうちに勉強?以外で好みや趣味が合い最初に彼と学校帰りに行ったのが人形町の寄席「末廣亭」で金馬の落語「居酒屋」三亀松や都やかつ系の「都々逸漫談」「千太・万吉」の漫才などラジオ以外ではじめて芸人の姿を生で見ました。寄席の屋席に詰襟を着て入場していたのは二人だけ。この寄席で二人共古今亭志ん生や桂文楽などの顔と芸を知りその後何度となく人形町通いを二人でしていました。二期は就職試験や面接が多く授業もあまり進捗せず自習が多くなっていました。

▼わざわざ無料の佃の渡しで隅田川を渡り築地を歩き歌舞伎座にもよく行きました。彼の父の影響か歌舞伎にはかなり詳しく知識と蘊蓄を語り、梨園の系図など抜群の記憶で、その歌舞伎座で三商同期の通称「仙ちゃん」と会いこの仙ちゃん、大向こうから役者が見栄を切る場面で「成駒や・・・」とか「成田やア」とかの声掛けの真似事などして細田君はこの立見席（一幕見）の常連だったのをその時知りました。オマケに歌舞伎座のもぎり（入場券をチェックし半分に切り取る仕事）のお嬢さんと顔見知りとなり「三商の歌舞伎研究会です」などといい加減な事を言うといつも顔パスで「一幕見」ができました。新橋演舞場でもこの手で出入りし「世話物」の名台詞をしつかりと憶えました。

▼日本橋の東京ガスの裏手にあったカウンターだけのコーヒー店「ナナ」にも仲間4、5人で出入りし、この時憶えたコーヒーの優雅な香りは嗜好として今も続いています。白木屋の屋上で時間潰しのアブラを売り、細田君が屋上のペット売り場のオウムに「買物は高島屋」と吹聴し憶えさせようとして、店員ににらまれました。当時のデパートの屋上はこの店舗も小鳥などのペット売り場でした。その後しば

らく白木屋には行かず。仲間の誰かが白木屋前にいた靴磨きの小父さんに「いまお金これしかないんで片方だけみがいてくれる?」と言い「片足だけ磨く人は居ねえよ」と鋭い眼光で言われ後で仲間で大笑いとなりました。八重洲口近くの甘味処の「なかばし」で汁粉や磯部巻き食べ、今の高校生のような私服もなく、何処へ行くにも制服の背広か詰襟である三商帽を堂々と被り、それがあたり前のことでした。ジャズ喫茶の「銀座テネシー」にもこの格好で行きました。



▼そうそう、この「テネシー」で簿記の八田先生とばったり会い、私達はビックリ、きつと明日は校長室に呼び出されると細田君と覚悟をきめていました。次の日の「簿記」の時間に八田先生がいきなり「昨日は十二期の海老原啓一郎（テナーサックス奏者、ジャズ界では知られていました）がいつ出演するかを聞きにいったついでに入ったら君達と会った」といいました。すかさず細田君が「先生も、ジャズ好きなんですか」と問い先生は「君達よりは詳しいよ」と微笑みながら即答、すぐに工業簿記の

授業が始まり、それだけでした。

その後八田先生の「簿記」の授業に何故か親しみが沸き『簿記検定』の二級に合格、細田君も一緒にパスしたはず、ジャズと簿記、趣味と勉学の変な因果に卒業後も二人の酒の肴として笑い話になっていた。私がふらふらと仲間と出掛けるのは塾の休みの日、木曜日だけでした。細田君は自営グループ、私も就職先が決まり勉強以外にこんな楽しいバカな事をやっていた三商在校時代、六十数年前の事でしたが断片的な思い出とは言え夫々にいつも細田君が一緒だったことを鮮明に思い出します。

▼細田君は下谷の生まれてもあり小学生のころすぐ近所にあの「江利チエミ」の家族が住んでおり2歳年下のチエミさんから「タケちゃん、タケちゃん」と慕われ、その後の彼女の活躍はご存知のごとし。在学3年生の十二月浅草国際劇場（現浅草ビューホテル）に当時絶大の人気を誇った「ジョージ川口 & ビッグフォア」と共演し、これをあの頃は「実演」と言い封切り映画と併せての公演でした。幼馴染の縁で彼と二人で楽屋訪問、映画上映中の休憩時間をチエミさんとビッグフォアの4人も加わり楽しくしゃべりまくりました。ジョージ川口さんがアイスクリームを出前でとってくれ、ジョージ川口さんが「アイスクリームの出前は冬に限るよ、夏は配達中に溶けちゃうからね」と言い大きな声でチエミさんと笑っていました。アイスクリームを出前で食べたのは、後にも先にもこれがはじめてで、おまけに真冬の十二月、ステンレスの器に独特のスプーンとウエハス、翌日クラスメイトに自慢してしまいました。細田君と二人、あの頃はアイスクャンデーしか食した事の無かった懐かしい思い出です。「君達、学校はどこなの？」と中村八大さんに聞か

れ細田君が「三商です」と言い小生が「アルトサクスの海老原啓一郎さんは先輩です」と言うのと「先月、エビちゃんとステージ一緒だったよ」といっていました。帰りの都電の中で「小野満つて、スゲーいい男だな」とか「中村八大つて、歯並びが悪いなア」と言い合いながら「ジョージ川口さんが沖繩での米軍慰問の演奏の時、エージェントをした将校から中古の戦闘機を一機貰ったけと置く場所が無かったので断った」って話は本当ですかと聞いてみたらオオボラ吹き、話のスケールのかさのジョージさんを知っていたので細田と顔を見合わせてヤメた、この話は後年も細田君と会う度に笑



い話となっていました。

▼細田君はなんせ趣味の幅が広く晩年は彫像師運慶、絵師の葛飾北斎、伊藤若冲等昭和の川瀬巴水などに多大な興味を持ち、住まいが上野公園に近いのもあり、最近まで電チャリでチョコチョコと博物館に通っていたようです。卒業後池之端にある「横山大観記念館」へ二人で行った時、大観は富士山の絵画が得意で有名でしたが「松竹映画のタイトルの方がいいね」など二人で戯言を言い、今思えば日本画の超大家「横山大観」に失礼な事を言ったと反省。松竹映画のタイトルの富士の写真は岡田向陽と言う人の作品だったと思います。

▼地元「入谷の朝顔市」の開催時には毎年豪華な「アサガオ鉢」が宅急便で送られてきました。品種の最高峰は「團十郎」と言う浅茶色の朝顔で、値段も高価で、市ではあまり目にできませんが細田君は市の開催前に栽培農家に足を運び手にしていたとか。江戸末期に市川團十郎の江戸歌舞伎の代表作「暫」で着た衣裳の色が評判となり、その色が浅茶色で、その色を模して当時の朝顔職人が作り上げ、いまも伝統的な朝顔として受け継がれていると教えられ私の朝顔に対する見聞を広めてくれました。地元氏神の本祭礼には神輿の先達を務め、羽織袴姿で入谷町内を練り歩き、その羽織袴姿の出立はタツパのいい細田君にピッタリ。今も印象に残っています。

▼近在の学校で学童疎開の苦労話や昔の子供の遊び、PTAの会長、町内会の会長はもとより纏めや世話役、最近では高齢者を中心としたコミュニティグループをつくり下町の旧所名跡を訪ね歩く集まりの陣頭に立ち、昨春神田川の面影橋から椿山荘付近まで花見見物、小生も参加しました。彼のご長男がいつも父親に協力していたのが印象に残りました。

思えば彼と街中を歩いた最後の花見でした。その少し前、自らの体調と相談しつつスパーの進出、安売り店の出店拡大などで小売商いの衰退もあり店舗を閉め、体調回復に幾たびか入院を重ね、COPDの既往症はもっていたものの「血液癌」については「寛解」の御墨付けを受け「オレもまだ頑張るぜ」といつていた矢先のこの度の訃報でした。週に一度は互いにメールのやりとりをパソコンでしており、訃報を聞いたその日には送信するメールを午前中に送るつもりで下書きができあがっていました。数少ない大切な「メル友」が一人居なくなりました。

▼コロナ禍の中、葬儀斎場の記帳台の机にあの卒業式の日に川岸の東雲橋の上に立つ彼の写真が飾ってありました。私が持つて行ったカメラで私が写したもので、後方にはあの時計台が写っています。ご長男に「この写真、親爺が凄く気に入っていたんです」と言われ胸に迫り涙が溢れました。

思えば在学高校生でありながら寄席、歌舞伎、ジャズ喫茶、コーヒーショップ、八重洲にあった甘味処の「なかばし」、神田三省堂での立ち読み、彼との数々のあの時の行動が昨日の様に蘇ってきます。

七十年に及ぶ友好に心から感謝を込めて手を合わせご冥福を祈り、残されたご遺族とも今後もお付き合いさせていただきまます。

さよなら・・・さよならタケちゃん・合掌

■追伸■

細田君は、パソコンの同窓会HPや年一度の「同窓会報」に寄稿していました。寄稿することが闘病中の彼にとっても楽しみ、憩いのひと時であり「寄稿することが闘病の励みになる」といつも私に語り、寄稿文の中でも書いていました。彼の逝去後、同期・同輩の黒子晃君とのメールでの話し合いで細田君の

意思を思い、機会あるごとに会報に寄稿する事を約束しました。すでに昨十月から黒子君が寄稿しており、彼の豊富な海外旅行体験や多趣味な被ゆえに、広い範囲の寄稿など書いてくれる筈。

細田君の強い意志の「読んでもらう、内容がユニークな会報、マンネリ化にしない、PCで送信されてくるのが楽しみな会報・・・」など少しでも細田君の思いを引き継いでゆこうと黒子君と誓い約束しました。

令和二年十月記

「気ままなドライブ」

第26期 杉本 光男

中学校の同期会のおりに以前三人で東北へ旅行したところのある一人が、まだどこかに行きたいなど言い出した。いいねと残りの二人も同意し即行くことに決まった。東北へ行ったときは一泊のバスツアーだったが、こんどはツアーでなく三泊くらいで行きたいということで、なかなか行き先が決まらなかったが、半年先の五月の連休明けに、鰹を食べに四国へ行くことになった。

今回は車で行こう、車は俺が出す、運転は任せておけ。話ほとんどん拍子に決まり、行程を組む役も出てきて、夢がどんどん膨らんでいった。一緒に行く二人は完全にリタイヤしているが、俺はまだ現役なので、倅に四日ほど休みを取ることを了承してもらった。

時々行程を組んでいる彼から、途中経過として、面白いところや、美味もの、景色のいいところの報告がはいる。だんだん面白くなってきた。そして出発の二週間ほど前に、一杯飲みながら最終打合せをし

ようということ、浅草で落ち合った。だが何となく二人のようすが沈んでいる。へんだなと思いながら、ビールを飲んでいると。一人が言い出しにくそうに話し出した。かみさんが年を考えると車での長旅はダメとのこと、電車で行くようにと言っている。ので電車で行こうと言い出した。面白くない！そうしたらも一人行程を組んでいたやつも全く同じことを言い出し、電車で行く行程も考えてきたのと。とますます面白くない。俺の腹の中では電車で行くなら行きたくない、でもせっかくの仲良しグループの旅行を断ることは出来なかった。ならば俺が先に車で四国へ行っている。最初に行くところが、金毘羅さんなら高松駅へ二人が着く前に行って待っているよ。あとはそのまま俺の車で回って帰りは広島あたりから二人で新幹線で帰ればいい、俺は一人で帰って来るから。俺の事はぜんぜん心配しなくていい。それならいいだろう。二人はなんとなく気乗りしない返事だったが、そうすることで決まった。だが、一週間前ぐらいになって一人が体調を崩したので行けそうにないと言ってきた。やっぱり、行きたくなかったんだな！だめだと思ったが、行程を組んでいた彼に二人で行くかと言ったが、三人で行こうとはじめたのだから今回はやめにしようと言うので。しょうがない、やめよう。

ということこの計画はおじやんになってしまった。二人はそれでいいかもしれないが、俺はそうはいかない。せっかく休みを取ったのにこのまま仕事に戻る気はまったくなかった。一人でどこかへ出かけよう。

気を取り直すには時間はかからなかった。気の合ったもので出かけるのもいいが、一人で行くのはもっ

といいと本心は思っている。倅には四国旅行は中止になったが、一人で出かけるから、予定通り休暇はたのむよ。

五月十日薄明るくなった朝四時頃の出発。準備は前日完全にそろえておいたのでぬかりはない。いつでも大した準備はない。着替えを三分、簡単な地図を一冊、忘れてはいけないのがカメラ二台、これだけあれば十分。あとはお金を少々。天気は上々気持ちの良いスタートだ。さてどこへ行くか、昨夜からどこへ行くか迷っていて決まらなかった。とにかく太平洋側より日本海がいい。ならば関越道で新潟に向かおう。それだけ決まればもうオッケイだ、あとは新潟に着くまでにその先どこへ行くかを決めればいい。一人旅は相談する相手がいないのでこういう時べんりだ。とりあえず向島インターから首都高に入り、外環、関越道へあとは黙っていても新潟へ一直線。

寄居を過ぎ荒川を渡ると周りに山が出てくる。都会を離れ段々いい景色になってくる。この辺まで来ないと高速道路は周りの景色が見えないので面白くない。前橋、高崎を過ぎると、右に赤城山、正面に雪をかぶっている谷川岳。もう周りは山、山、谷、いね！トンネルを出ると雪国ならぬスキー場が両側に現れ、朝早かったせいかとどこどこに霞がたなびいていてなんともいえない景色だ。写真を撮りたかったが、高速道路で車を止められない。残念。ひと走りすると、米どころ魚沼、あらかた田植えは終わっていたがまだ終わらない田んぼもちらほらある。植えたばかりの稲が何とも弱々しくて心配だ。だが朝日に照らされ緑がきれいだ。長岡ジャンクションで左に行けば北陸、山陰。右は新潟を経て東

北。そうだ緑といえ新緑だ。今回の旅行は新緑を求めに行こう。ならば長岡からは右へ、東北へ向かう。最終はちよつと早いかもしれないが奥入瀬がいい。



行き先が決まった。別に急ぐ旅でないで、これから出来るだけ一般道路で向かおう。日本海の海岸道路を走る。なんだか楽しくなってきたら急に腹が減ってきた。どこか海辺で景色のいいところで食事をしよう。

絶好の道の駅があった。車から降りるとちよつと風が強かったが、日本海を一望になんとも気持ちがいい。焼き魚（アジ）定食を注文した。これがえらくでかいアジがまるごと一匹、塩焼きで出てきた。うまかったがアジだけで腹一杯になった。五時間ぐらい走り続け、一回だけトイレ休憩をしただけだったのでここで少し長い休憩をしようと思った。

これからどういうコースをとるかゆつくり考える。新潟から国道七号線を北上しよう。地図では羽州浜街道とある。でも国道はどこどころ海岸から離れ、内陸に入る場合がある。その時は国道を離れ狭くても海に沿った道走る。これがきつと羽州浜街道なのだろう。今は便利なカーナビがあるので迷う

ことは全くない。

あつみ温泉、鶴岡を経て酒田へ向かう。狭い海岸通りを走っていると、小島があり、ごつごつした岩場もある、そして小さな漁港、集落、畑、それから山がある。短いトンネルを出たり入ったりしていたら、突然正面の海の上に浮かぶように雪をかぶった山が現れた。車を止めて地図を見る。なぜあんなところに山があるのか。たぶん鳥海山だと思う。ちょうど西伊豆から駿河湾の上に富士山が見えるのと同じだ。でも地図からではどう見てもあのように見える位置ではない。きつと地図以上に陸地は弓なりになっているのだろう。いい景色だ。ここでも写真を撮った。

酒田に着いた。酒田は昔大火があったのでおそらく復興されて町がきれいになっていると思ったら、とんでもない。JRの酒田駅前は全くひっそりとしていて商店がない。そばでも食べようと思っても店がない。そこで確か本間美術館があるはず。カーナビで探して行くと。駅からすぐそばにあった。本間美術館は奇跡的に大火を免れたとのこと。展示されている物は多くはなかったが、庭はよく手入れされていた。帰りがけ受付の女性という話をしていた。近くに土門拳記念館があると教えてくれたので行ってみた。大きな飯森山公園の一角にそれほど大きくない建物だが品よく建てられてあった。中に入ってみると昔の懐かしい誰かが見たことのある写真がいっぱい飾られてあった。写真集は何冊も見たことがあるが、原写真を見るのは初めてだった。いい写真だ。帰りにお土産売り場に気に入ったキーホルダーがあったので記念に買った。売場の女性が袋に入れようとしたが、その場でいま乗ってきた車のカギのキーホルダーと取り換えた。きつとこれも終



(ついで)のキーホルダーになるだろう。土門拳記念館で思わぬいい思いをした。いい写真をみてきたので、今回の旅行ではなんとか満足できる写真を数枚撮って帰りたいと思った。そんなことを思いながら走っていると「山居倉庫」まで七〇〇メートルという標識が目についた。ちよつと寄って行こう。観光物産館が併設されていて駐車場はばっちりあった。物産館を素通りして倉庫のほうへ行くと、思い出しているJRのポスターがあった。そのせいか大勢の観光客が写真を撮っていた。私もミラーになりいろいろと写してみた。なかなかいい雰囲気のリケー

ションだった。物産館ではうまいお米の宣伝をしていた。おむすび、お茶漬け、卵かけご飯など簡単な食事が出来る。うまさうだったので塩むすびとお新香のセットを注文した。宣伝通り非常にうまかった。腹ごしらえも出来たので、酒田の町をあとに走り出した。

国道七号線は新潟から青森まで日本海沿いを通っている羽州浜街道と言われている道なのだろう。しばらくこの七号線を北上していると右側真横に鳥海山が大きくそびえていた。登れるところまで行ってみるか。右折して山に向かった。鳥海山ラインというらしい。それほど急な山道ではなかったが、新緑がきれいだった。

しばらく登っていくと残雪が現れてきた。だんだん雪が多くなってくると緑がなくなってくる。そして道路の脇一面が雪になってきたところに見晴台があった。きつと峠の頂なのだろう。車を止めて景色を見た。眼下に日本海、こんなにいい天気、日本海はなんだか似合わない。どんよりしていたほうが日本海らしい。だいぶ寒くなってきたので、早々に下ることにした。下っていくと秋田県に入る。

また羽州浜街道 七号線に戻ってきた。海岸通りを走っていて、小さな町をいくつも過ぎてきたが、知っている町の名前が全然出てこない。知らない町ばかりなので、ちよつと地図を見ていたら、知らないうちに浜街道が酒田街道になっていた。そして羽越本線と並んでしばらく走ると、秋田まで六五キロとやつと知っている地名が出てきた。秋田を過ぎると男鹿半島だ。だとするとその辺が夕日の沈む時間になる頃だろう。きつといい写真が撮れると思う。今日は朝から晩まで一日中日本海を見てきた、秋田の街は素通りして男鹿へ急ごう。男鹿半島の突端入道

崎に着いたら、まだ日は高く夕日には一時間以上ありそう。がらがらに空いているお土産屋さんに入つて、夕日がきれいに見える宿があるか聞いてみた。あれば今日はそこに泊つてゆっくり休もうと思った。だがあまりいい旅館はないとの事なので、ここでの夕日の撮影はやめにして、もう少し海岸沿いを北上することにした。夕日はどこで撮っても同じだ。ところが能代に近づいてきたら急に空が黒くなってきた。今にも雨が降つてきそう。これでは夕日は無理だ。急変とはこんなことか。腹が減ってきたので海にめんした小さなドライブインに入った。お客さんは誰もいない。家族でやっている店なのだろう、中学生らしい女の子がかいがいしく店の中を掃除していた。お稲荷さんとイカ焼きを一本注文して、彼女にここは夕日がきれいに見えるだろうねと聞いた。今頃はちょうどこの方向に沈んでいく、毎日見ているのでなんでもない。そうだろうな、でもさえるものが全くないので、海に沈んでいく様はいいだろうなと思った。夕日を撮ろうと思つてずっと海岸通りを走ってきたんだが、急に暗くなつちゃったんで撮れなかった。いやー残念だよ。そんな話をしていたら、厨房にいたお父さんが、私の撮った写真を見てください。といつて奥から額に入つた写真を持ってきた。きつと部屋に飾つてあったものだろう。よく撮れているね。これでよかつたらあげます。といつて額ごと差し出された。なにか申し訳ないね。それにしてもここに座つていて見えるのだからいいよな。本当にきれいだろね。さつき娘さんが毎日見るからなんでもないと言つていたが、それもそうだね。礼を言つてお稲荷さん、イカ焼きと写真をもらつて店を出た。

六時前なのにもう真つ暗になっている。雨も降りそうな雰囲気になってきた。さて今夜はどこで泊まろうかな。能代、大館どつちでもいいか。気が付いたらガソリンが底をついてきた。田舎の細い道路ではスタンドがないので国道に出よう。ちょうど七号線が能代から大館、弘前へと続いている。国道に出るとすぐにスタンドがあった。ガソリンを満タンに入れて七号線を北上していったら、大館の街を通り過ぎてしまった。ならば今夜は弘前で泊まろう。国道を走ったが弘前駅前まで結構時間がかかった。八時を過ぎてしまった。駅前のビジネスホテルに決める。素泊まり四、八六〇円安い。急いで夕食（飲み）を食べに出た。駅前だったので居酒屋がいっぱいあった。魚のうまさうな店を選んだ。ちょっと高そうだったが、お客さんは少なく雰囲気のいい店だった。空いてるカウンターに座って、生ビールと刺身、煮物、焼き物を注文した。お通しです、といって芋煮みたいなのを結構大きな器でビールと一緒に出てきた。すぐく量の多いお通しだ。このいきおいで注文したものが出てきたらとても食べきれないぞ。そう思っていたら、あんのじょうみんな量が多い。カウンターの中にいた若い彼にずいぶん大盛りだね。といったら。そうですかと云って気にしている様子はなかった。生ビールを飲んでしまったので日本酒をたのんだ。カウンターの彼に何年ぐらい勤めているのか聞いたら。アルバイトですと返事が来た。学生か？ この学校？ 弘前大です。国立じゃないか。はい！

それから話がいろいろ盛り上がった。国立の大学生がこんな居酒屋でバイトするのか？ バイトするところが少ないんです。この店はいい方なのです。まわりにはたくさん安い居酒屋があるが、バイト料も安いんです。ああそうかね、どうも高そうな店構えだったよ。お客さんはどこから来たのですか？ 東京だよ。東京スカイツリーって知ってるか？ 家はあのタワーのすぐ下にあるんだ。東京スカイツリー知ってますよ、へーすごいですね。ひとつもすぐくないよ、あんたたちエリートがバイトしている店の方がすごいよ。この店にはバイトは何人ぐらいいるんだね。ほとんどがバイトで店員としては確か三人だけです。あとはみんなバイトで、学生は私達三人です。私達というと三人共同じ国立大か？ はい 一人は女性ですが。けっこう広い居酒屋であとの二人はどこにいるか見渡せなかった。料理はちよつときどつていたがなんせ量が多いので褒められない。この店は量が多いのが売りののか？ 東京人は飲み屋でこんなにボリュームのある料理は好まない。よかつたらあんたもつまんでくれよ。小皿とおちょこを持って来て。一緒に飲もう。



カウターの席が三か所ぐらいに分かれていて、他にもテーブル席もかなりある。このカウンター席は彼が任されているみたいなのでまわりを気にすることがなく箸とおちょこを持ってきた。酒でいいのか？ 焼酎でも何でも好きなものを呑めよ。お酒で結構です。ならば次はもう少し大きなお銚子で入れてきてくれ。専攻はなに？ 農業です。弘前大の事は良く知らないが、農業が一番なのかね。いや、うちは医学部が優れているんです。医学部か へーそれは知らなかった。農業はどんなことをやってるだ。ことしの私の課題は、雪に埋まった木と埋まらなかった木の生育の違いを調べています。なんだかマイナーな研究に思えるが。おいしいリングゴを作るとか、酒造りなんかいいな。冗談はいいが、卒業してから役に立つ勉強なのかね？ 自分で農業関係の仕事に就こうと思ってるの、それともどこかへ就職をするのかね？ 私は就職をします。もう一人は農家の後継ぎなので実家の後を継ぎます。女性は先生になるようです。三人三様で面白いね。地方で就職というところというところなのかね？ 私は国家公務員、出来れば農林省へ勤めたい。ゆくゆくは官僚か？ すごいな！ 試験はどこでやるんだ？ 東京でやるんですよ。いつ？ 再来年です。へー。東京まで就職試験に出てくるのか、大変だなー 何なら俺の家に泊まってもいいよ。交通の便はいいから。ありがたうございます。もう少し酒を飲もう。何かうまい酒が無いかな。学生仲間で飲んでいる酒があります。なんていう酒だ？ 「ん」ていう酒です。「ん」なんて面白い名前でしょう。これが人気があるのです。その酒はこの店にもあるのかね。ありますよ、それいけますか？ いこう！

持ちの席の客はすでに帰っていたようだ。店の中にはお客は何人もいないらしい。あんなたちも一緒に飲もう！ ちょっとだけ刺身を切ってもらえないか？ 板さんが上がってしまったているのもう無理です。じゃあ残り物で飲もう。

先生になりたいという彼女は見るからに向いている様相をしていた。小学校の先生がいい。そんなに美人じゃないけど、愛想がいい。子供たちには人気者になるだろう。小学校の先生がいんじゃない。と水をむけると、そう見えますか、うれしいわ。小学校の先生を希望してます。でも小学校の先生はなかなか難しいらしいので勉強しないと。そういうながらも自信満々の様子だ。もう一人農家を継ぐという彼は、農家にはちよつともつたないぐらいいのイケメンで、体格もずば抜けていい。あんなはモデルだろう。地味な農業をやるように見えないね。商社マンか営業マン、セールスがいい。いや私はバリバリの農夫です。学校に来ているのが半分、あとはうちの仕事をしています。だからここにバイトに来る必要はないのだが、三人は仲良しなんです。卒業するまでは一緒に行動しようと三人で決めているのです。いいことだね、俺もそういうの好きだよ。まさしく青春そのものだ。うらやましいよ。思い返せば俺にだってそういう時期があったんだがな。六十年も前の事になるか。え！六十年前って、お客さん何歳ですか。十五年生まれだ。十五年生まれって、昭和だろう。いくつだ？ まいったな。家の爺さんが七十四才で確か十八年だか十九年生まれだよ、するとお客さんは七十五才をとうに過ぎている。ですよね！ 誕生日が来ると七十八だ。とりたくて年を取ったわけじゃないよ。知らないう

ちにこうなってしまった。

東京から何しに来たんですか。旅行だよ。車で一人旅を楽しんでいる。旅先でこういう話が出るのがなによりも楽しい。そう思わないか。まして今日は本当に真面目な青春を謳歌している君たちと話が出来て本当に楽しいよ。はるばる弘前まで来ての事だからなおさらいんだ。これが東京での出会いだと一つも面白くない。

話が盛り上がってきたところだが、そろそろこの店も看板だろう、もう一本飲んで上がろう、できればほかの店で飲みなおそうか？ ここで別れるのはちよつともつたないな。俺たちは平気ですよ。いつもこんな調子で明け方までしゃべっているのだから。どこか行きつけの店があるだろう？ あるなら場所を変えよう。本当にいい気分だ。ずいぶん旅をしているが、こんなに楽しいのは珍しい。

彼らの行きつけの店は、さっきの店からは十五分ほど歩いたところにあつた。駅前から細い道に入り何回も曲がつて来たので、ホテルに帰れるか心配になった。そうとう古めかしい年季の入った店だった。時間はけつこう遅いのになぜいふんと混んでいたが、イケメンの彼が店の人に



片手を上げて、奥の片隅の席へつかつかと入って行った。慣れたもんだ常連なのだろう。いつも来るのか？ はい、三日前も来ていました。三人で夏休みをどうするか相談していた。夏休みにはまだはやいだろう。俺は最近大学生の勉強をしているところを見たことがないが、あんなたちはどうなんだ。勉強しているのかね。そんなことを言ってるうちに、注文した様子はなかったのに、ちゃんとお通し(やっぱり量が多かった)と酒(例の「ん」)それと焼酎に水と氷が運ばれてきた。それから先の注文をどうするか。イケメンが今日は何にする？、俺ちよつと腹がへつてるのでいつものでいいかな、と仲間到了承を得ていた。お客さんは(俺のこと)さつき刺身を食ったかたみたいたので刺身にしますか。官僚志望が言ってくれた。オッケー。

それで注文は終わった。

俺たちけつこう真面目に勉強しますよ。授業は休まないし。俺は別だけど、とイケメンが言った。俺は半分ぐらいいしか授業に出てないからな、でもちゃんと単位は取れている。だから卒業は心配ない。実地の勉強(農業経営、作物の作り方等)は学校以外のところで教わっている。ただそこへ通うのも学校の紹介がないと行けないところなんだ。その紹介をもらうために学校に来ているようなもんだが、それが無ければ学校に行く必要がないくらいだ。でも学校に入ったからこの仲間と会えたんだから、やっぱり学校はいいところだとおもう。

どう見ても一番勉強しているのは学校の先生志望の彼女だろう。とまた水を向けると、脇から官僚志望が、そういうふうに見えるかもしれないが、俺が一番やってると思う。自分で言うのもおかしいがこんなに勉強してどうするんだと思うときがある。何の

ために、はたしてこれが役に立つのかいつもそんなことを思いながら勉強している。あんた正直だね！こんな純な人に官僚が勤まるのかとふと思った。そこへ行くと彼女はいたって平凡だった。私は先生の資格が取ればいいのだからそんなに難しくはない。いまのままで十分合格する自信がある。ただ心配なのは先生が余ってくるところではないかということ。そうだな、資格を取っても仕事にありつけない。それは先生ばかりではないと思うが、でも人手不足は全国どこも同じだから働くところはあはずだよ。農家のイケメン君のところは何を作っているの？主にリンゴです。それはいいね、特産品だもんな。でもリンゴは今品種が多くなり難しくなっている。消費が国内ばかりでなく海外へ輸出するようになってきた。海外市場を目標そうかいま迷ってる。そんなことを考えると、俺が一番楽しんでいるように見えるが、いちばん大変なのかもしれない。イケメン君はばかに神妙な顔で話していた。前にいた官僚がさかんにうなずいていた。彼のところはリンゴばかりでなくけっこう手広く作物を作っているの、これから人手が相当必要になってくる。大変だとおもいます。イケメン君はバイタリテイがありそうだから大丈夫だよ。そもそも家業を継ぐということは、はたから見ている以上に大変なんだ。俺も吹けば飛ぶような個人企業だが、親爺のあとを継いだ、仕事の事ではいい思いをしたことが多かった。ただ本当にこつこつやっていくしかなかった。だから楽しみはほかに求めた。今回のようにドライブをするとか、ゴルフをするとか。本当は仕事をするのが楽しいことになれば一番いい。そこへいくと三人共未来は明るい。やりがいがある仕事に就けそうだ。うらやましいよ。

本当にずいぶん真面目な話し合いになってきた。こんな話し合いは最近したことない。我々の仲間も六十年も前になるがこんなことを話していたんだろ。うな。ちよつと思ひ出せない。酒を飲みながら話すような話題ではない。酒がしばらく止まった。ずいぶんかたい話になったがもう少し飲むか。学校が楽しくてしょうがないだろう。勉強ばかりしているわけではないだろう。スポーツは何かやっているの？彼女はゴルフの同好会に入っている。俺は陸上をやっていたが最近家の事に縛られてなかなか運動は出来ない。こいつはまるつきり運動神経がない。官僚を指さして笑った。彼は本当に優等生なんだな。まさしく三人三様いい組合せじゃないか。ますますうらやましくなってきた。話が遊びから趣味へくだけてきたが、どうしたことか恋愛の話題には進まなかった。なんだか今晩はけっこう飲んでしまった。酒が喉を通らなくなってきた。これ以上飲めそうにない。そんな矢先もう少し飲んでくださいよ。と官僚が注いできた。もう俺は駄目だ。俺、車の運転は強いが酒は駄目なんだよ。そうですよね前の店からだときつこう飲みましたよね。無理強いはしませんよ。そういつてくれて助かった。時計を見たらすでに二時を回っている。別に遅くなくてもなら関係ないのだが、とにかく疲れた。今日は朝五時前から起きて一日中運転していたのだから、いくらなんでも疲れたよ。そろそろこの連中とお別れしよう。話が盛り上がりつつあるのに悪いけど、そろそろおいとまするよ。今日は朝早くから起きて東京から走って来たんで、そうとう疲れた。酒も限界だし、頭も限界に達してきた。足りない分はみんな出してくれ。といって一万円を渡した。これでは多すぎます、

ここは安いんだからとイケメン。いいよ本当に楽しい話が出来たのだから。礼を言うよ。あんたたちもあまり遅くならないように。明日はどこへ行くんですか？と彼女が言ってきたが、明日は何時に起きられるかわからないが、一応今回の旅の一番の目的地「奥入瀬」に行くつもりなんだ、新緑には早いかね。早くないですよ、ちよつといい頃だと思えます。きつときれいですよ。何一つ調べてきているわけではないので、行き当たりばったりだから、その先は別に考えてない。十和田湖から八戸へ出て三陸海岸を下ろうか、山の中を盛岡まで行こうか。どっちにしてもこれ以上北へは行かず下がることにしようと思う。一人で車の運転は飽きないですかね？飽きないよ、これが良くて出てきたんだから。なんなら一緒に乗っていくか？そんな暇ないだろう。だって、八十になろうとする人が、一人で東京から車の運転してくるなんて考えられない、気を付けてください。ありがとね、あんたたちも良い大学生活を送ってくれよ。やっぱり起きられなかった。目が覚めたのは九時をとくにまわっていた。頭は特別痛くなく目覚めは良かった。天気の方も良さそうだ。さて今日はどうしよう。昨日は風呂に入らず寝てしまったので、まずシャワーを浴びてすっきりしてから考えよう。弘前城がすぐ近くなのでまずそこへ向かおう。朝食はそれほど腹がへっているわけでもないの、自販機でお茶を買って車の中にあるせんべいを食べてよしにしよう。弘前城には五年ほど前の連休に、「東北桜めぐり」のツアーで来たことがあった。その時は桜が満開素晴らしかったが、それ以上に見物客の多かったこと



に驚いた。上野公園の比ではない、人が多く埃がものすごく、桜どころではなかった記憶が残っている。今日は平日の昼前桜も終わって葉桜 緑がきれいだ。本当に静かな弘前城をゆっくり一回りして、お堀のすぐわきにある保存家屋の石場家住宅をみて、黒石市に向かい、黒石市中町伝統的建物群保存地区になっている、「こみせ通り」に車を止めて、古い家屋（一部現役で使用している）町並みを見ながら歩いて回った。こういう古い町並みを見るのが好きなんだ。その一角にこれまた古びた家屋の喫茶店があったので、お茶をしようかと思つて入ろう

としたら「ちょっと外出してありますがすぐに戻ります」と札がドアにかかっていた、ドアはあいていたので入ってみると、室内はあまり広くないがすごく感じのいいインテリアだった。客は一人もいなかったが、きつと待ってればすぐに帰ってくるのだらうが、そこまでしてコーヒーを飲むほどでもなかったの、先に行くことにする。

岩木山を背に、八甲田山をめがけて走る。市街を出るとすぐに山道に入る。もう周りは新緑一色、景色はすごくいい。途中車を止めてシャッターを押すことしきり。対向車も追い越して行く車も全くない。こんな景色のいいところを貸切りで走っているのは申し訳ないようだ。ところどころに展望台みたいなところがあるが、さすがにそんな場所には車が三三台止まっただけで写真を撮っていた。しばらく行くと、東京でもよく知られている、酸ヶ湯温泉に着いた。周りは残雪がいつぱいで、上のほうではスキーをしていた。この温泉はものすごくでかくて出入り口は男女別々だが、中に入ると混浴なんだ。何回か入ったことがあるので今回はパスしよう。お土産だけを買って先に行く。しばらく新緑の中を走っていくと、奥入瀬の入口 奥入瀬溪流ホテルに到着。ここで遅めの昼食をとることにした。ホテル自慢のカレーライスを注文。美味しかった。腹ごしらえができたので、今回の一番の目的地である奥入瀬溪流を十和田湖に向かってゆっくり楽しんで行こう。新緑には早いかなと思つたが最高の時期だった。この緑をどう表現すればいいのか言葉が分からない。新緑の葉の奥に小さな滝があり、新緑の下に岩場を流れる清流がある。また新緑に混じってわずかながつつじのピンクが何とも言えない。こんなにきれいな時期なのに観光客が少ない、しかも車もほとんど走っ

ていない。どうしたのだろう。観光バスが全く来ない。以前来たときは、マイカーと観光バスが混じって大渋滞だった。今回は車が少なかったの、途中車をどこにでも止められた。走っては止め、降りてカメラのシャッターを切る。しばらく止めておいても平気なのだ。普通じゃ考えられない。ここは溪流沿いを歩いて行かなければ写真なんか撮れないのに本当にラッキーだ。それがこうしてちよこちよこ止めて写真が撮れる。大満足だ。全身新緑に染まってしまったような、腹一杯の新緑を堪能した。嘘みたいな時間が流れた。小一時間かけて十和田湖まで写真を撮り続けた。きつといい写真が撮れていると思う。

以前行った上高地の新緑もよかったが、ここは緑一色、空がみえないほどで、清流も緑に染まってしまうほどだ。上高地のほうのアングルは、上から真っ青な空、山並みが残雪の白、山裾が新緑、そして一番下がきれいな流の透きとおった清流の色（何色だか表現できない）。だから上高地の新緑は写真にとると画面の一部（山裾）しかない。ところがここ奥入瀬の新緑は画面全部が新緑なのだ。どちらもきれいなことには違いない。

十和田湖畔をしばらく走りこれからどっちへ向いて行こうか休憩をとって考える。

以前ツアーで来たことのある、陸中海岸の北山崎という景色のいいところがある。そこはもう一度行ってみたくところだが、夕方になってしまっただ。だとしたらこのまま盛岡へむかって盛岡泊にしようか。盛岡の街をゆっくり探訪するのもいい。決めかねていたが車の中で食べるお菓子がなくなつたので、とりあえづお土産屋さんに入った。チョコレートと喉飴を買って店員に今までの旅行の顚末を話

し、これから盛岡に行こうか、陸中海岸の北山崎に行こうか迷っていると話したら、いいですね。一人旅ですか。うらやましい。私なら今日は盛岡に泊まって、明日北山崎へ行きます。それから松島まで被災地を視察したらどうですか。と言ってくれた。とてもいい案だが被災地は何度か来ているので、今度来るときはもう少し復興が進んでからにしようと思っている。ここから北山崎まではそうとう時間がかかりますかね。いや、夕方前には着きますよ。夕方の北山崎の景色もいいですよ。また途中山道ですが景色は抜群です。車も少ないし新緑がいいですよ。最後の言葉がよかった。北山崎へ向かおう。

十和田湖畔で一休みした後 一路陸中海岸の北山崎めがけて一目散。便利なカーナビが案内してくれるのでたよりつきり。三戸、二戸、久慈市と途中きれいな景色を見ながらの運転はこたえられない。道路も全く空いているのでけっこう飛ばして走れた。これもドライブのいいところだ。ただ山の中を右に左に曲がっているとどっち向いて走っているのかわからなくなる。漠然と南下しているという感覚でカーナビのいうがままに走ることしきり。久慈市に入つてやつと海（太平洋）が見えてきたので方向がわかりだした。しばらく行くと北山崎の案内板が出てきた。これなら以外と早く着きそうだ。北山崎の駐車場についたのが三時四十分。ずいぶん早くついたな。飛ばし過ぎだったかも。駐車場からちよつと歩いて、海岸のすごい崖っぷちにある展望台へ。そうそここの景色。素晴らしいよ、確か記念切手になっているところだ。ダイナミックな切り立った海岸は素晴らしい。日が傾きかけてちよつと暗くなったが、カメラにもしつかり納めておこう。帰りがけ駐車場まで



の途中にある、お土産屋さんもうほとんどしまっていた。うるさくなかったがこれもなんだか淋しい。さてこれから今晩の事を考えなければならぬ。海岸を南下して宮古で泊るか。それとも盛岡へ行くか。宮古のほうが近いが、この時間なら盛岡まで行ってもそんなに遅くならないだろう。ならば盛岡がいいや。

決まればすぐ出発。また燃料が少なくなってきたので給油して一路盛岡へ。給油所で聞いたら盛岡には八時ごろになるとのこと。思ったより遅くなつてしまいそうだ。盛岡では少しおいしいものを食べたい。腕子そばなんかじゃなくて、なにかないかな。そんなことを考えていたら急に腹がへってきた。日が隠れて夜道になった。田舎道は夜道の方が気を使う。

カーナビがなければ大変だ。昔九州へ行ったときはカーナビなんてなかった。簡単な地図だけで平気だった。いまは違うカーナビに頼り切っている。昼間と違ってなんの景色も見えない、夜の田舎道をとこと行くのもまた面白い。二時間ほど走ったら何となく都会に近づいてきた感じがし、車も多くなってきた。なるべく早くホテルを見つけよう。安いビジネスホテルを探すので、盛岡は弘前より大きい街なので都心へ行くといくつかもしいかなと思った。運よくちよつと賑やかなところで、結構大きな新しいビジネスホテルを見つけたので即決。普通のホテルみたいで大浴場がある。一風呂浴びて表に出る。繁華街が近かったので助かった。さて今晩はうまいものを食べるぞ。居酒屋でなくちゃんとした料理屋さんがいい。少し歩くと店舗はちよつと大きい、きれいなレストランとその隣にあまり大きくないが、こじんまりとした感じのいい寿司屋が並んでいた。頭の中でビーフシチューと刺身がうかんできた。久しぶりに迷った。でも盛岡まで来て寿司屋か洋食屋はないだろう。もう少しこの地にふさわしいものがあるだろうが、なんせ下調べをしてこないのだからできない。風呂に入つたせいかなにか疲れも出てきた。今日は昨日の半分ぐらいしか走っていないのに、と思いつつながら他を探すのが面倒になった。疲れているのだから肉にしよう。正解だった。外観より店の中のほうが全然素晴らしい。高級レストランだ。自分の服装がちよつとラフすぎた感じがしが引けた。

これはちよつと高いかもしれない。今晩はそのつもりだったのだから気まいよくいこう。にしんの酢漬けをつまみに生ビールを一杯注文した。すきつ腹には旨かった。いい気持になったところで、コンビニ

フとジャガイモの炒めたものとウイスキーの水割り
をたのみ、食事はビーフシチューにライス注文
した。昨日の夜は若い三人と話がもりあがったが、
今日は一人だ、でもなんだかすごく充実した気持ち
で、ひとつも淋しくない。静かで上品で気の利いた
ウェイターが時々見回りに来る。ほどよい疲れのな
かりラックスして、お酒と食事を時間をかけてじつ
くり味わっている感じだ。自分で言うのもおかし
いが本当にいい気持ちだ。東京にこんな店があつたら
いいと思った。

大満足で表に出た。気持ちがいい、盛岡の街を散策
したかったが、疲れの方がどうも優先している。街
歩きは次の機会にして、ホテルに戻ってもう一度風
呂に入って寝よう。今日も良い一日だった。

目覚めがよく気持ちのいい朝を迎えた。いつもよ
り遅いが今日は良きそうさ。何日だか、曜日
も定かでないでテレビをつけてみた。十三日の土
曜日だ。もう一日どこかに泊まって、日曜日に帰れ
ばいいのだ。今日はどこへ行くかな。このホテル
には朝食が付いているのでとりあえず食事に行こ
う。

昨日のビーフシチュー美味かったな。そんなことを
思いながら食堂に行ったら、バイキングでこれまた
うまそうなものが並んでいる。今朝は和食でいこう。
納豆、生卵、鮭の塩焼きに味噌汁を食べた。久しぶ
りに朝ごはんを食べた気がした。ホテルの精算を済
ませて、ロビーで観光案内のチラシを見ていたら、
山形の銀山温泉の案内がやけに目立って置いてあつ
た。手に取ってみると小さな川をはさんで両側に古
びた木造の旅館が並んでいて、真中の橋の上で花笠
踊りを踊っている写真が大きく載っていた。以前か

ら行ってみたいところのひとつだった。

でも今晩は蔵王へ行って周辺に沢山あるひなびた秘
湯に泊まろうと思っていた。ビジネスホテルばかり
じゃ可哀そうさ。だが蔵王はまだ雪があつて上まで
は行けないだろうな、そんなことを思いながらホテ
ルを出た。盛岡市内を少し走ってから、カーナビに
蔵王温泉と入れて走り出したらすぐに高速道路に誘
導された。高速に乗ったら早くついてしまうので、
一般道に指定し適当に走ることにした。またしばら
くすると山の中に入り緑がきれいな街道をのんびり
走った。ちよつと高いところには雪が結構残ってい
た。蔵王はまずいな、とりあえず目的地を鳴子温泉



に変えた。

まわりの山には雪が結構残っているが、道路はまっ
たく雪は心配なかった。俺は雪道は怖くて運転出来
ない。でもこんな状態なら蔵王も行けそうさ。ただ
天気の下り模様だ。

県道一号线を南下していく。今日も全く知らない山
の中を走っていると、ゴルフ場が出てきた。今回の
旅ではめったにゴルフ場は見なかったのだが、「八
幡平カントリークラブ」の看板があつた。確か毎年
夏にプロの試合をするとこだ。ゴルフ場を過ぎると
また人里離れ景色のいい田舎道、山道をひたすら走
る。本当に楽しいドライブだ。普段の生活、仕事か
ら完全に離れ、明日は何時に起きてどこに行くとか、
また会議や人と会う約束があるとか、それよりも独
り身の俺には三度三度の飯の支度があるが、そんな
こと一切気にすることなく、運転に没頭してられ
る。こういうのもたまにはいいな。今日は朝しつ
かり食べたのにちゃんと時間が来ると腹がへる。車
の中には食べるものがもう飢しかったので、飴
をなめ食事の出来そうなところがきたら屋にしよ
う。観光地だと人里離れたところによくそば屋があ
るが、この道路にはなさそうさ。コンビニはないだ
ろうし、道の駅なんかがあるといいな。日が陰って
きた、緑の輝きが薄らいでくる。やっぱり新緑も紅
葉も天気の良い方がきれいさ。だいたい高台を走って
きているようで、なかなか人里がでてこない。運転
しているにはこの方が楽しいのだが、腹がだいたい
減ってきた。スキー場がみえてきた。そうとう山
の中だ。四号線は岩手県の真中を南北に通っているの
で、それに平行に走ってきたつもりだったが、だ
いぶはなれて秋田県よりを走ってきた。JRの北上線

「ほつとゆだ駅」という面白いなまえの駅があり、ちよつとした街に出た。駐車場がある食堂があつたのでここに決めた。中に入るとけつこうお客さんが入っていた。どうもみんな地元の人らしい。メニューは無く壁にいろいろ書いてある。カレーライス、卵丼、親子丼、チャーハン、餃子、焼魚、うどん、焼き肉、羅列してあつて値段が書いてない。かつ丼が書いてないのでたぶんないだろうと思い、親子丼を注文した。厨房の方に声を掛けたら、テーブルに座つて話をしていたお客さんの中から老夫婦が立ち上がり、はいよ！と言つて厨房に入つて行つた。お客さんは近所の人たちで、どうも町の掃除をしてきたらしい。皆さん食事は済んでいて、楽しそうに話し合つていた。見るからに個性の強そうな年寄集団だ。親子丼がなかなか出来てこない。中をのぞくと二人で一生懸命やつているみたいだが、何か足りないものがあるのか氣になったが、大きなお盆にのせてやつと出てきた。ふたのかかつた丼と、大きめのお椀に味噌汁、お新香、それにきんぴら、鰹節のかかつたほうれん草のおとしたし。とてもサービスがいい。親子丼定食なんだろう。ふたを開けると



うまそうな親子丼だ。味噌汁もきんぴらもすべて江戸前ならぬ田舎前。家庭の味だ。美味しかった。さてこれからどう走つてどこで泊るか。地図を広げる。天氣があまり良くないので山道は避けよう。蔵王はやめにして氣になつていた銀山温泉に行つてみよう。泊まる泊まらないは行つてみてからだ。横手に出て、新庄、尾花沢そこから銀山温泉に。国道十三号線だ。早いとこ給油して少し急ごう。ちよつと走つたら秋田県に入つた。これからは今までみたいに空いた道路ではないと思うので、スピードを出さずに氣をつけて走らないと。右手遠くに鳥海山がかすんで見える。行きはあの山の向こう側を北上していったんだ。単調な国道を南下していくと山形県に入る。この辺は岩手、秋田、山形、宮城の県境なんだな。新庄を過ぎると最上川が出てくる。この下流の方が 朝ドラの「おしん」の故郷だ。もうすぐ花笠音頭の尾花沢。ここまでくれば銀山温泉もすぐだ。天氣が悪いせいか日の暮れるのも早い。薄暗くなつてきた。尾花沢の街はずれからけつこう大がかりな道路工事をやつていた。そこを過ぎると急にさびしい道になり何となくさびれた温泉地にむかつているようだ。けつこう走つたところで銀山温泉についた。パンフレットに載つていないようないい雰囲気温泉街だ。ちようど暗くなり両側の宿屋の明かりがつき、なんとも言えない情景だ。車の止めるところが少なく、しばらく戻つたところに路上駐車して、カメラ片手に歩いて行つた。確かに写真を撮るにはいいロケーションだ。何枚か撮つていたら急に拡声器の大きな声で、もうすぐ花笠踊りが中央の橋の上で始まります とアナウンスがあつた。それを聞いて両側の宿から浴衣姿のお客さんがぞろぞろ出てきた。あつという間に橋のまわりを埋め尽くしてし

まった。今日は土曜日で旅館も満員なんだろう。それにしても大勢だ。年配の観光客が多かつたが、良く見ると半分以上が外人だ。驚いたね。そこへ襷をかけ花笠を持った踊り子が五、六人出てきた。スピーカーから大音響で花笠音頭が流れ踊り子(各旅館の女中さん)が踊りだした。スピーカーの音が大きすぎてただ騒がしいだけだ。外人はこんなのを喜ぶのかね。これはたまらない退散しよう。本当はもしよかつたら泊まるうかと思つていたが、とてもそんな氣にならない。

さてそれでは今日はどこに泊まるか。またビジネスホテルを探すようになってしまった。尾花沢か天童か山形市内か、市内はちよつと遠いので天童で探そう。少し飛ばして走つたが一時間半ぐらいかかった。また遅くなつた。将棋の駒で有名な天童だが、町は非常にさびしい。駅前はずつと暗かつた。エアポートホテル名前はいいが朝食付きで四千円安いよ。さて夕飯と思つたが、駅前なのに何も無い。タクシートの運転手に聞いたら、もうこの時間ではやつてるところはないよ。国道まで出て郊外のドライブインを探した方が早いとのこと。駐車場に入れた車を出して、国道十三号線へ出てみたがあまりない。コンビニが一軒やつていたのでそこでカツサンドとサンドイッチ牛乳を買つてホテルに戻つた。今晚はなんだか寂しいな。

やつぱり疲れているんだろうな、よく寝られた。目が覚めたのが八時ちよつと前。天氣はあまり良くない。カーテンをあけるとどんよりしている。今日は帰る日なので、早目にホテルを出よう。仙台を回つて帰ることにしよう。まずは山形市へ出て仙山線にそつて行けばいいのかな。山形市内もなんと静か

な町だ。日曜日なのに馬鹿に静かだ。市内を回って見ることなく仙台に向かうと、すぐに山寺（立石寺）の標識が出てきた。ここは立ち寄って行こう。ものの二、三十分で着いた。駐車場はガラガラで観光客は居なかった。カメラを持ってこはしばらく登らなければならないので、覚悟を決めて歩き出した。この近辺では人気のある観光地なのに、外人さんもなく静かに散策できた。秋の紅葉の時期がいいのかな。以前来たときには、登り口のお土産屋さんで味噌こんにやくを食べた覚えがあるが、お土産屋さんもあいてなかった。写真を撮りながらのんびり登ったが、天気が気になってきた雨が降りそうだった。一時間ちよつと戻ってきたが、駐車場に着いたとき雨が降り出した。車の中で一休みしていたら、本格的に降ってきた。これでは仙台へ行ってもしょうがないか。仙台で特別に行こうとしていたところはないので、雨もひどくなってきたから帰ろう。雨の中の運転が一番気を使う。秋保温泉を過ぎ仙台南インターから東北自動車道に入る。久々の高速道路だ。やっぱり車の数は多い。それに早い、すぐに福島県に入ってしまった。国見 たしかラグビーだかサッカーの強い高校があった町だ。福島を過ぎ二本松右側の方に磐梯山、安達太良山が見えるはずだがかすんで何も見えない。そうだ、磐越道を行っていわき小名浜漁港でお土産を買って帰ろう。磐越道に入るとすぐに桜で有名な三春町、ここの桜をみに何回も来たことがある。一本だけなのだが大きくすくすくきれいだ。確か枝垂桜だったと思う。

いわきまでは訳ない。カーナビで小名浜漁港にセツトする。簡単に着いてしまう。市場で遅くなつたが昼飯を食べる。さすがに日曜日の市場は混んでいた。なにかやつと観光地に来たような気がした。海鮮丼

のうまそうなのを食べて、干物のお土産を買って、早々に帰ることにした。雨も上がって常磐道をひたすら東京に向かって走るだけ。これだと渋滞がなければ明るいうちに帰れる。

今回四日間のドライブは今まで経験のない、まったく計画なしで出かけた旅だったが、結構面白かった。行程の計画がないと、どうしても先へ先へ急いでしまうようになる。いままでが車を置いて歩き回るということをあまりしてこなかったので、車に乗ってる時間がすごく多くなる。どうしても遠くに行きたがるのでこうなってしまうのだろう。そうとう無理な長時間運転をしているのだが、それほど疲れは感じてない。

今回は前半天気も良かったせいかな非常に楽しかったが、後半いまいちだったような気がする。あまりにも無計画すぎたように思えた。やっぱり行き先の情報はもう少し持っていた方がいいかもしれない。後になつて行けばよかったというところが出てくる。ただ知らないで行って予備知識がないがために、感動することもある。逆に予備知識があるがために期待外れになってしまうことも多い。どっちもどっちだが今回のような旅もたまにはいいと思う。



第二回 三希展（三人展） が開催されました。

母校 三商は、昭和3年（1928年）1月に開校し、平成30年（2018年）創立90周年を迎え、記念の年に第26期同期会会長である古田勝一氏が発起人となり、三人展を開催しました。

26期生の二名と、28期生の一名の三名で第1回三希展（平成30年3月7日～14日）を開催し、多くの同窓生の皆様のご来場をいただき大変有意義な展覧会となりました。

その後、二回開催を予定しましたが、コロナの影響により開催できず、この度やっと、開催にこぎつけました。今回も発起人である古田会長の全面的バックアップによりスタートしました。

【三希展】の名称の由来は三商の校歌「希望は燃ゆる若きわれら」の「希」よりいただきました。

1・会期 令和5年6月27日（火）

～7月2日（日）

2・出品者

豊田紀雄（26期）





北島朝子 (28期)



水上健二 (26期)



4・今回展の様子

26期の皆様



3・会場

神楽坂セッションハウス



28期の皆様



26期、28期の皆様



27 期の方とお孫さん



26 期の皆様



オープニングパーティー
皆さま和気藹々と会話がはずみ、高校時代の思い出
や、仲間の消息、各作品についての話題など賑やか
な幕開けとなりました。



24~30 期の方も来られて





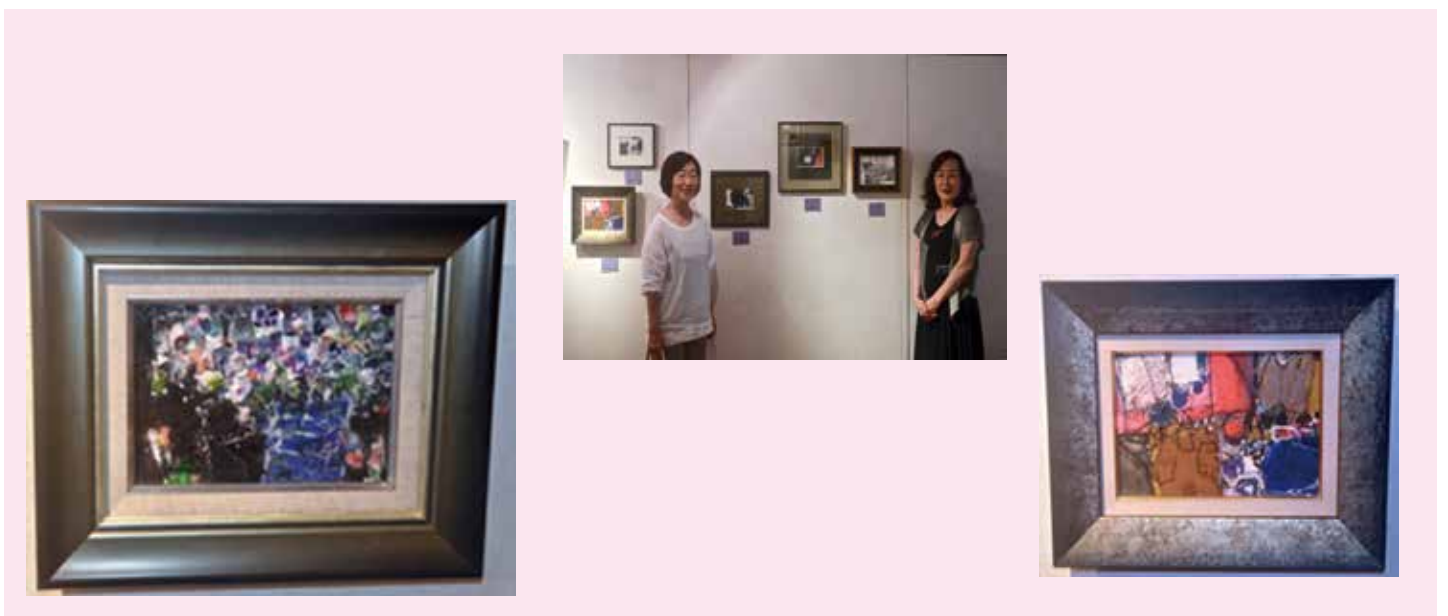
豊田紀雄作品





水上健二作品







連日、三商同窓生の皆さまや絵の仲間、演劇関係の方々などおいいただき、あつという間の6日間でしたが三商同窓生の熱い応援に感動しながら三希展を無事終えることが出来ました事感謝を込めてご報告いたします。有難うございました。

(26期 水上健二 記)

第22期生の皆さんへ

第22期 篠崎 清

皆さん如何お過ごしですか。こんなこと言う令和2年の三商30会からの一時休会のお知らせでの期日が令和3年10月となっておりますが既に2年近くが過ぎようとしております。この間、大勢の会員の皆さんから如何なっているのかと問い合わせがありました。コロナとは関係がない個人関連の問題が種々起こりまして解決に時間がかかり今日となつてしまい申し訳ありませんでした。

先日皆川さんという相談した結果30会の皆さんの意見を聞いて結論を出すことに致しました。方式としてアンケート方式にする事としました。

この三商同窓会報ではこの件は個人問題ですので後日8月20日以降に改めておおふくハガキを差し上げますので必ず返信を下さい。お願いいたします。

私、コロナにかかりました

第26期 岩瀬 和子
(旧姓坂口)

令和三年九月、上の階に居る孫が味覚障害と発熱で検査の結果、陽性でホテルへ隔離されました。一日何回も出入りしているので念の為私も検査したところ、陽性でした。自覚症状がまるでなく、まさか陽性になると思わなかったもので、一人で検査に行きました。主人を連れて行けないので、夜間検査に来てくれる人を紹介されました。検査費用は九千三百円でした。これまた陽性でした。

二人とも高齢なのと、主人が糖尿病なのですぐ済生会向島病院へ入院となりました。救急車でなく普通の車で迎えに来てくれました。運転してくれる人から「誰も会いませんでしたな」と云われ、周りの人にも気を使ってくれる人だなと思いました。

すぐレントゲンを撮り、私の方が肺に影が多く写っていました。主人が点滴を1時間、私は三時間かかっていました。一人一回しか打てない多分カクテルなんでしょうかという薬だったと思います。広い四人部屋で二人、部屋から出ることは禁じられ、用事は全てナースセンターへ連絡、一日中テレビを見ているだけでした。九日間入院でした。

自覚症状がなかったのは、ワクチンを打っていたからですよと看護師さんにいわれました。コロナは十日で感染力がなくなるそうです。でも免疫力はないそうです。自覚症状もなく、後遺症もなかったのはワクチンのお陰なのかと思ひ、六回目のワクチンを先日打ちました。

あの頃の
身近な世相昭和二十六年から
二十九年まで

21期 高野 昇

1年生の時

▼三商入学式の日には小雨の降る少し肌寒い日でした。昭和26年春、兄（16期）の使っていたお古の三商の制帽を被り母と一緒にでした。母が学校に関する行事に来てくれたのは後にも先にもこの時だけ、だから雨が降るんだとうすうす思っていました。中学の担任の先生が「お前、本気で三商を受験する気か？」と少し屈辱的な言葉を言われましたが、入試の「アチューブメントテスト」で数学と国語、家庭科でかなりの高点をとっていたのが功をそうしたか、卒業生の兄二人を追うように入学にパスしました。入試の前には上の兄が私を連れて三商に清田教頭を訪ね挨拶に行きました。「怖そうな先生だな」と思ったのがその時の清田教頭の印象でした。在学中にその思いは払拭されていました。

▼三商に入学してまず驚いたことはトイレ（当時WCと言っていました）がタイルぶきだったこと、講堂以外に体育館（床はあちこちと破れていました）が」と武道場があること、やたら広い運動場（今の新校舎がある場所は川岸運動場と言っていました）、地下室（地下水が溜まり使用していませんでしたが）

があり、階段教室、屋上があり動かない時計がある時計台などでした。校舎の隣の商船大学には米軍が接收しており、正面入り口にカービン銃を捧げた歩哨兵が凛然と立っている様子には愕然としました。入学数400名、8組編成で1・2組は男女組（この言い方は年令のせい）で男女組の経験は小6年生の時以来なので少し戸惑いました。戦後6年、まだあちこちに戦災の傷跡が残る、まだらに建っている復活した家々もほとんどがトントン葺きでした。我が家もそうでした。屋根に葺く瓦やトタン板の代わりに杉皮を葺くのに職人が口にくわえた小さな釘を驚くほどの早業でトントンと葺き上げる、そんな屋根をトントン葺きといました。

▼この前年「朝鮮戦争」が勃発しています。昭和25年6月25日のことでした。日曜日でした。その日、珠算の検定試験があり東大の25番教室で3級合格を目指して懸命にパチパチとやっており、結果3級に合格していたのでよく憶えています。そしてこの1年生の時、その指揮官だったマッカーサー元帥が北朝鮮に原爆を使用するとかの理由でトルーマン大統領から罷免されました。国電（JR）桜木町火災事件があり、63（ロクサン）型という木製の車両数両が燃え多数の死傷者ができました。日米講和条約が締結し今村校長先生の「これからは新しい日本に生まれ変わり君たちはその礎として社会に出るべき」との在校生へのメッセージとともに「君が代」を歌った記憶があります。金へん景気が始まり糸へん景気もピークだったようです。そうだ、日本初の総天然色（いまは死語となりました）映画「カルメン故郷に帰る」木下恵介監督」が高峰秀子主演で製作、上映されました。秋には三商のシンボルである時計

台に真新しい時計が設定されました。

▼この年、民間放送《ラジオ》がはじまり関東でもラジオ東京（TBS）がスタート、有楽町駅前にあった毎日新聞社ビルの上階が放送局になっていた。なにかのクイズに当たり、私の氏名が放送されたと同級生の誰かが教えてくれたので局に賞品を受け取りに行きました。賞品はGAIANTSの川上哲治のサインいりのバットでしたが私はアンチ巨人でしたのであまり有難味や嬉しさはありませんでした。実家が建て増したり、立て直しをしている中で父が勝手に処分したらしく、今、持っていたかなりの「家宝」でした。このビルの最上階には丸屋根のプラネタリウムがありました。戦後はやっていたなかったかもしれません。今、思うに懐かし、この近辺にはロードショーのスバル座やビデオホールがありました。ビデオホールといえばジャズバンドのあの「ビッグフォア」の公開ラジオ放送を見に行き、番組スポンサーがトリスウイスキーでした。雨後の竹の子の様に沢山のバンドが出現した時もあり、その中でもトップの人気を誇るビッグフォアには感動。司会が江戸弁ペラペラのロイ・ジェイムスという明大野球部員の経歴をもつ、変な外人ですが素晴らしいMCでした。

2年生の時

▼2年生になりクラス替えがあり、同じクラスにやたらとバレー部の連中が多く、担任がバレー部の指導顧問だった吉岡鶴義先生（12期生）なので納得。この年の山形国体に1年先輩の出町豊氏を主将として東京代表で出場しました。戦後初めて日本が参加を許されたヘルシンキオリンピックが開催され、



レスリングフェザー級で石井庄八が金メダルを獲得しましたが、競泳の古橋が400M自由形決勝で8位と振るわず実況中継のNHKの飯田アナが「日本の皆さん、どうか古橋を責めないで下さい」と泣き声で放送していたのを夜中の布団の中で聴いていました。

昭和22年、敗戦のショックからまだたち上がれず挫折と屈辱の中に居た日本国民の励みとなり、三十数回の世界新(400米自由形)を打ち立てた彼の實力も峠を過ぎ、アメーバー赤痢の中でのオリンピック参加でした。盟友橋爪四郎が千五百米自由形で銀メダルをとったにもかかわらず表彰式でずーっと下を向き、俯いていた記録映画を観ましたが、それは盟友古橋の無念をおもったの事だったと数年後のTVでのインタビューで知りました。橋爪氏は受けた銀メダルは「古橋の気持ちを思い一切公開していない」と言っていました。友を思う泣けるエピソードです。陸上で五千、一万、マラソンを制した

チェコの間機関車ザトベックも忘れられません。

▼校内の体育館の床も綺麗に張り替えられ、私はバドミントン部にいましたがバレー部優先の使用で、ろくな部活が出来ず退部しました。まだ高価だったラケットやシャトルを買うことができない事も理由の一つでした。寂しい思い出です。新聞部にいた綿引君に頼まれ、原稿を綿引君になりすまして書いたりし、今で言えばゴーストライターですね。当時の通産大臣だった故池田勇人が「事業主が倒産や自殺するのは止むを得ない」と発言し、即辞任させられた事があったのもこの年だったかも。今でも失言、暴言をする閣僚がいますが全て謝罪で済ませ、公人らしからぬ輩が多いと思いませんか。ボクシングの白井義男が世界フライ級の王者にもなり、プロ野球では巨人が優勝したがアンチ巨人として興味なく、打撃部門でファンである名古屋ドラゴンズ(現中日)の西沢、杉山がタイトルをとり杉下が澤村賞をとり、いずれはと期待したその夢は卒業後の昭和29年に実現しました。

▼この年、今でも忘れられない映画を観ました。木村功主演の「真空地帯」です。山本薩夫が監督、旧日本軍隊の内地兵舎の日常の有様をリアルに表現し、閉鎖的、絶対的な縦組織、初年兵に対する屈辱的、絶望的な制裁などの描写に圧倒されました。原作者の野間宏はこの年に「毎日出版文化賞」をうけました。江利チエミさんの「テネシーワルツ」が大ヒットしました。前年、アメリカでP・ページが歌いビルボード誌のヒットチャートに9週連続1位をとった曲でしたが、無名だった彼女を起用しリメイク曲をヒットさせたレコード会社(キング)はさぞびつくりだったでしょう。同年発売された美空ひばりの「りんご追分」を抜いて年間

トップのレコード売れ上げだったと聞いています。どこの街のスピーカーからも、どこのラジオ局からもあの「I was dancing with my darling」the beautiful Tennessee waltz この曲はその後テネシー州の州歌になりました。この2年生の時はクラスの雰囲気もあつてか沢山の友人ができました。

各友人と連れ立って、歌舞伎、寄席、映画、相撲、プロ野球そしてコーヒー、餃子など、現在の趣味、好みに通じるものはその時に友達共々見聞、経験したものが多くですね。貴重な昭和27年の2年4組でした。

3年生の時



▼3年生になるとすぐに修学旅行がありました。5月のゴールデンウィーク(GW)の前後でした。ちなみにGWは当時の大映映画のワンマン社長として鳴らした永田雅一が発した言葉で、祝日の多いこの時期に大衆が映画を観に押しかけて来るので映画界にとっては掻き入れ時とみての言葉でした。11月の「文化の日」の頃は芸術祭参加作品の映画が集中して製作され観客動員数が多く、シルバーク(SW)とマスコミは称してました。映画界の隆盛期に入った時期です。

修学旅行のコースは当時の定番、奈良・京都の2泊3日でした。私達の中学3年時の修学旅行はほとんど1泊で、私の在学していた小岩一中は修善寺温泉で蜷山の「反射炉」を見ただけでした。おまけに食事に「米」を3合(540CC)ずつ持参、まだ「米」が配給の時代でした。三商時代は米の配給も価格統制はあったものの撤廃され自由化されており米持参はなかったのですが、往復とも夜行列車で、今の修学旅行からは想像できない強行軍で、現在は飛行機、新幹線、少し前には「北斗星」で行ったり、海外まで行く学校もありで60数年前との「隔世の感アリ」です。旅館での入浴はできず、希望者は旅館近くの銭湯に行きました。知らない土地の銭湯に入るのには少し抵抗がありました。私は兄のカメラ、「リコーフレックス」という二眼レフ(懐かしい)を持って行きました。そういえば夜行列車での移動中、車中の電灯をきり、喫煙し強者?がいて後日、停学をくった同輩がいました。同窓会などでは今は笑い話となりました。

▼5月、イギリスの登山隊のヒラリーがシエルパのネパール人テンシンとともにエベレストに世界初の登頂に成功「そこにエベレストがあるからだ」との言葉を語ったと報じられましたが、実は過去何人かの人が何度も挑戦しつつも敵わず、「どうして難行不落の山へ?」の質問に、ある登山家がすでに語っていた言葉だそうです。征服という言葉、いまはあまり聞かれず、活字にもなっていない。それより前の3月にソビエトの首相スターリンが死去、「巨星墜つ」と三大紙が一面トップに大きな見出しで報じました。レーニン以降徹底した共産主義を貫き粛清と更迭を行っていた独裁者、少しずつソビエトの方向が変わってゆく転換期だったと思いまし

た。生意気にも私が政治、経済、国際情勢、時事問題に少し興味をもちはじめた頃でした。就活運動の時期でもあり、一学期の終わり近くに生徒を講堂に参集させて、東京進出が決まっていた「大丸デパート」が大々的な求人PRにきて当時としてはカラーのPR映画を上映、就職希望者全員が受験しそうな雰囲気でした。結果は誰も受験しなかったと聞きました。

全校生徒で映画を鑑賞することもよくありました。当日朝に指定の映画館前に現地集合、鑑賞後各自で登校し、適当に昼食をとり、なんともこの日はウキウキの一日で「ひめゆりの塔」を見たのもこの機会でした。あの「東京物語」が公開されたのがこの年の秋で、洋画にもかなりの傑作が上映されていました。「シェーン」「ライムライト」「禁じられた遊び」など、この3作は映画音楽としてもヒット、「シェーン」のラストシーンの・・・シェーンカムバック・・・グッバイシェーン・・・はバッグに写っていたワイオミングの山並みと共に素晴らしきシーンでした。

2学期に入るや就活が活発になり、教室の後ろの黒板には求人各社の名が羅列され、今思うとその企業各社は後にはほとんどが上場企業になっていた感があります。「A社の試験にはすごい昼飯が出た」とか、B社では「交通費が余分に支給された」とか、そんな話題と共に私も金融関係企業の内定を11月の末に受けていました。ある日突然校長室に呼ばれ今村校長、清田教頭、椎名先生から、高卒は三商生と一商生しか採用しないという関西五棉の一つの貿易会社のG商社を改めて受検するよう指示されました。すでに内定している会社の方はどうするのか、全ては学校で責任をとるからとの説得で、結果G商

社を私一人が受験、得意な時事関連問題と珠算の実践試験をクリアし内定をもらいました。一商からは2名が内定していました。すでにG商社には19期生の石原、鈴木の前先輩が就職しており、内定済の金融会社には清田教頭が丁重にお断りしたと後日、直接私に話してくれました。なんかあの時代は自身流れに逆らわず、暢気だったのか、それとも先生の言うことが「絶対」であり、こちらも「全幅の信頼」を寄せていたのでしょうか。そんな昭和28年の2学期でした。

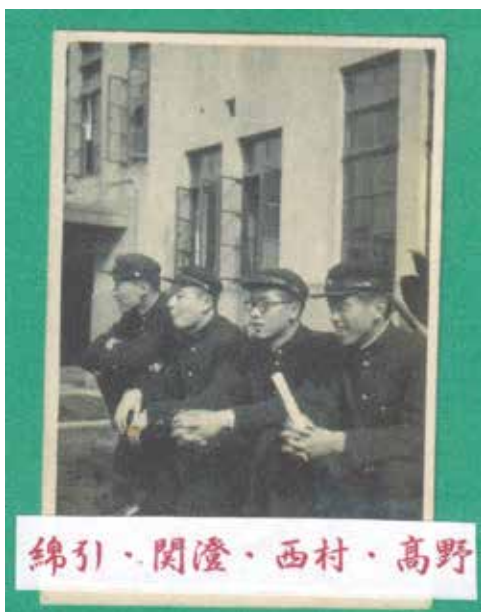
▼プロ野球では西鉄ライオンズの中西太の凄いホームランを後楽園球場で従兄弟と観ました。遊撃手が一瞬ジャンプし、左翼手が前進、打球のライナーが一直線にスタンドに刺さりました。豊田、大下、仰木、関口など野武士軍団と呼ばれ翌年にパリーグの覇者となりましたね。寒くなった頃「真知子巻き」が流行っていたこともありました。白いレース風のストールを被り首に巻く、映画「君の名は」の岸恵子が流行りの源です。内定を受けた仲間、まだ就活中の同輩などで授業も落ち着かず、放課後には人形町の末広亭に落語を聞きに行き志ん生、文楽、圓生、可楽、金馬などの噺に腹を抱え、歌舞伎座や新橋演舞場へ親友の細田君と同行し演舞場のモギリのお姉さんと顔見知りとなり「顔パス」で3階の立見席に入ってもらったり、日本橋界隈をぶらぶら歩き珈琲店の「ナナ」なるカウンターだけの珈琲店に入りし、ママに親切にしてもらいコーヒの味と味覚を憶え、その嗜好は今に至っています。八重洲口近くの「なかばし」という甘味処にも汁粉を食べによく行き店内で同期の女子生徒とばったり会いお互いに気まずい思いをしたことがありました。大相撲の開催中には蔵前国技館にT君と取り組み12目には必ず

行つてました。大相撲では「鳴門海」の様式美あふれる格調高い仕切り、「清水川」の足を高く上げた支股、「信夫山」の素早い双差しなど。今は個性と格調を備えた力士が皆無に近く少なくなりました。「怒り金時」と呼ばれていた「名寄岩」もいました。横綱は羽黒山、東富士、照国だったでしょう。

▼卒業式は昭和29年3月6日の土曜日でした。翌日が中学のクラス会の予定日だったので憶えています。式の後、4・5人の友人と裏の豊洲橋の上で写真を撮り、ここは校舎と時計塔が良く見える場所で、当時は木の橋で狭くて長い橋で車は不可、そして仲町の「お好み焼き」の店で詰襟姿の最後の別れをオレンジジュースで乾杯し別れました。卒業少し前にあのマリリン・モンローがJ・デイマジオと新婚旅行で来日、力道山が柔道家木村政彦と組んでシャープ兄弟と後楽園球場で対戦し街頭TVで観ました。プロレスブームの始まりでした。

ビキニ環礁で第5福竜丸が被爆、この年の秋、映画「七人の侍」が封切られ、9月に「洞爺丸」沈没事件があり世相的には、色々あった卒業年度の昭和29年でした。最後に小学・中学からのあそび友達と一緒に三商に入り「日本電気」に就職した木内一雄君が就職間もなく社内の事故で亡くなる悲劇がありました。字が上手く、けん玉が上手、野球が大好きだった木内君、日々忘れたことがなく、改めてご冥福を祈ります、合掌。







西村 細田 関澄 小林?高野 高松
日本橋コーヒーショップ"ナナ"前にて



黒子・松沼・?・富樫・木下・石塚



晩年まで心友だった
故石塚と細田



黒子・高野
・西村・細田



昭和27年5月
2年生、伊豆一碧湖へ遠足

あの日 (中学生の時)

マッカーサー元帥を見た



21期

たかの のぼる

米英の敵将であり連合国軍最高司令官で、昭和20年8月15日の終戦、その15日後の8月30日に占領軍の指揮官として厚木飛行場に降り立ちました。その様子は当時の報道写真やニュース映画、TVのドキュメンタリー等で報じられています。ロッキード社製の3枚尾翼の専用機「バターン号」のタラップを降り、一旦扉を出た所で立ち止まりゆつくりと左右を睥睨(へいげい)し、5つ星を付けた制服、制帽、レイバンのサングラス、くわえたコーンパイプなど、彼最高のパフォーマンズでしたが、これは降伏に応じなかった一部軍部のクーデターへの不安、完全な武装解除への疑心、もしもスナイパー(狙撃手)にでもへの危機感を持つての行動で、丸腰で降りたことを後悔していたとの事だったと「マッカーサー列伝」(発行元不明)に書いてありました。実ははその時に彼が緊張のあまり「失禁」していたとの噂もあり、その時の数多い写真のアップを改めて見るとそれらしい証拠?が見られます。真意のほどは「彼のみぞ知る」です。

▼それは三商受験を翌年に控えた昭和25年の春休み、あの東京大空襲で生まれ育った江東区亀戸の家が消滅し、江戸川区小岩に4年近くの避難生活のあと、父母の忍耐と努力、借金で昭和24年秋、元の場所小さな住まいと商いの店舗を兼ねたバラックの家を建てました。中学は避難先だった小岩一中に電車通学していました。同じ境遇の友が沿線(総武線)におり、N君、U君、K君らとはいつも同じ車両に乗り通学、電車のなかでの会話で「いつか4人でマッカーサーを見に行かないか」と話が纏まりました。▼マッカーサーといえばその数年前の大戦での鬼畜

▼マッカーサーといえば戦時中の小学生の頃に歌われた軍歌のなかに出てこいニミッツ、マッカーサー出てくりや地獄へ逆落としなどさんざん唄っていました。その本人が「出て来い」どうり勝利者として慄然(りつぜん)として現れたわけです。その本人、本物を見に行くのには少し勇気がいるし怖い感じが交錯しました。しかし彼は戦後の貧困、食料不足、飢餓に苦しむ敗戦国民、とくに幼少年に對し「ララ物資」という援助物資で私達に少し潤いをもたらしていただきました。学校で配られた鉛筆2本、白い食パンにイチゴジャム、初めて口にしたチョコレート、何故か学校で野球のボールのような丸いチーズをもらいました。母も家族も食べ方が判

らずどうしたものか迷いの果て、味噌汁の味にしています。近所のおばさんは石鹸だと思い銭湯に持っていく「アメリカの石鹸は丸いんだね」など言っていたなどの笑い話も聞きました。そのマッカーサーは皇居前(当時は宮城前といっていました)にある第一生命ビルに総司令部を構え、宿舎は横浜グラントホテルで、そこからの行き帰りの様子が第一生命ビルの前で見ることができた訳です。

▼4人は亀戸駅ホームで落合い、電車賃を少しでも浮かそうとすでに意見が一致しており秋葉原で下車、あとは神田を抜けまだ空襲の名残を残す焼け跡を横目に見ながら一路皇居前へと向かいました。ここでハプニング!神田小川町あたりで米兵数人のグループとすれ違いました。その際同行のU君が突然に「Give me chocolate」と言っていました。U君は以前から外国兵を見るとすぐにその言葉を言ってしまう質(たち)があり、小学生でもあるまいしと他の仲間共々思っていました。が、なんと米兵がニコニコ顔で4枚のチョコレートをくれました。見たこともない分厚いチョコでU君は「やったぜ!」と言わんばかりの得意顔、皆に1枚ずつ分けてくれました。「ララ物資」のチョコとは違いくぐく甘く、U君曰く「これってPXモンだぜ」。PXとは兵士専用の売店で銀座の服部時計店のビルを接収し、PXとなっていたのです。彼はやたらその方面に詳しく、小学生の頃は走るジープを追いかけて「Give me.....」の先頭にいつもいました。わたしもその後ろの方で追いかけたことがあります。がジープの排気ガスのガソリンの匂いとチョコレートが今でも頭の中で一緒になっています。

▼第一生命ビルの前ではマッカーサーがいつ出てく

るかも不明のまま3時ごろまで正面を4人でウロウロしていると2人の警官が来て「お前達、どこから来たんだ、こどもは早く帰れ！」などと強い口調で言われ隣の小さなビルの路地にしばし(たむろ)していました。当時は少年にとつてお巡りさんはごく怖い存在で戦前のお巡りさんの怖いイメージがまだ拭かれていなかったのでしょうか。ここまで来て帰ってたまるかとか4人の意志は通じあっていました。そのうち、沢山のカメラマンや記者らしき人が玄関前に集まりだし、いよいよの感あり、カメラマンの足の隙間からのぞける位置は絶好の場所だねと4人で領き合いました。ついにマッカーサーが出てきました。ドアの前で立ち止まり隣の将校と一言二言、例のレイバンのサングラスやコーンパイプはしていませんがギャバジンの制服、折り目がバツチリのズボン、すらつとした体系で、私の感想は「ワッ、カッコいい」でした。私達の前方10メートルあたりを足早にアツというまに通過、車道に待たせてあるシボレーのセダンに乗り込み、シボレーは日比谷交差点方面に去っていきました。その間30秒くらいか。帰りは約束どおり秋葉原まで徒歩、家についたら母に「何処へ行ったの?店も手伝わらないで」と怒られました。

新学期が始まり4人でマッカーサーを見に行つたところがクラス仲間の話題となり4人は少しだけ優越感に浸りました。U君は「Give me...」の戦果を自慢し、ほかの3人に分けてあげたことを誇らし気に語っていました。そして一言「あんな旨いチョコ食つてりゃ戦争に勝つよヨ」と言いクラス仲間もなんか納得した様子もありました。この2カ月後の6月25日、マッカーサー率いる連合軍が「朝鮮戦争」に参戦、三商在学中もこの戦争が続

き、日本は特需景気に入りました。さらにその10か月後、マッカーサーはこの戦争に踏み込み過ぎたかトルーマン大統領に司令官を解任され帰国しました。後に「老兵は死なず、ただ消え去るのみ」の言葉を残しました。それは三商1年生の時でした。

▼平成24年の夏、マッカーサーが執務していた部屋が特別に一般公開される機会があり、参観しました。参加者が多く少人数ずつの案内でかなりの時間待ちで、私を含めて高齢者が多く、60数年前の人物に対する個人個人の思いの数々、私達の年代の者にとつては忘れられない存在だった事を再認識しました。執務室の椅子と机は当時のままで、以後なんら手を掛けていないとか。椅子の革張りはすり減り、ボロボロで歴史そのものを表していました。机には引き出しがなく、これは彼が全てにおいて速戦即決のため引き出しが不要だったと説明がありました。司令官としての実戦経験から、速戦即決が身に付き、それが彼のその後の結果を招いたのかもしれない。隣の会議室もそのままで、ここで日本の現実と今後の対策、果ては朝鮮戦争の戦略などが決められていたのでしょうか。その中に彼の後任者として就任したりリッジウェイ将軍も居たはずです。

見学が終わり生命ビルの玄関前にしばし佇み、この場所68年前、10メートル先を足早に通り過ぎたマッカーサーを仲間と見に来たあの日に思いを馳せました。「Give me...」のU君はその十数年後に肺結核で亡くなりました。彼は戦災で家族を亡くし、一緒に疎開していた姉との二人暮らしでしたが、いつも陽気で話が面白く回りを笑わせる、そんな彼にクラス仲間全員が親近感を感じ、忘れられない友でした。チョコレートを口にする機会があると、あの屈託のない笑顔と得意げに話す顔、ただた

だ懐かしく思い出します。

同期会報告

続：生涯青春!!と云う名の景色

第26期 古田 勝一

コロナ禍で2年間開催出来なかった26期同期会。昨年に引き続き、今年も目出度く通算32回目を開催することが出来ました。





今回の同期会は3組が当番でしたので、代表幹事には深瀬剛男さん、藤田有宏さん、鈴木久美子さん、牧野滋子さん、岡田礼子さんをはじめ3組の方々に よって進めて頂きました。

特に幹事長の深瀬剛男さんには、毎回のことながら、名簿の洗い直しを始め「同期会の魅力!! 楽しみ方!!」を最大限に引き出す為、心のこもった至れり 尽くせりの行き届いた準備を3組の抜群の「チーム ワーク」を以って進めて頂きました。

令和5年6月13日（火）上野「東天紅」

天候・台風3号接近なるも快晴!!

卒業生⁴⁷²名 出席者44名

(物故者¹⁰⁴名・住所不明者⁹⁵名・住所判明者²⁷³名)

6月のジュニアンプライドの最盛期ではありませんが、平日開催と云うこともあり眼下に「不忍池」遠くに「スカイツリー」を眺める最上の部屋での開催となりました。

司会進行ならびに当番幹事代表挨拶は深瀬剛男さん。乾杯の音頭は鈴木久美子さん、牧野滋子さんによる女性ペア。

会場では東北支援の一助として恒例の「三陸名産焼まつも」(高級海藻)の販売をいたしました。

宴たけなわの中「クラス別記念写真」撮影は杉本光男さん。



続いて「校歌・応援歌」斉唱…早生まれ、遅生まれの差はありましても、82歳前後になって「都の空」を声高らかに歌っていただける幸せを味わいながら…。

昭和34年、あの懐かしの時計塔が聳える校舎を⁴⁷²名で卒業した26期生も今年で卒業64年目となります。その間、100余名の仲間が故人となりました。ここに慎んで御冥福をお祈りいたします。

残された私共、生存者は80歳の「傘寿」を乗り越え、これより先は88歳の米寿へとチャレンジして参ります。

「生涯青春であり続けたい」との願いを込めて…。

編集部からお願い

三年余りのコロナ過の影響で、今まで定期的に同期会、有志の会を開催されていた方々も、会の中止、延期を余儀なくされていたことと思います。

まだ完全にウイルスを撲滅したわけではありませんが、国が定める伝染病の扱いも、所謂二類扱いから、五類扱いとなり、世の中でも祭りや花火大会、各種の集まりなどが復活して、少しずつ元の生活を取り戻しつつあります。

様々な思いの方がおられますから、従来のメンバーが全員参加とはいかなくても、同期、有志の集まりを催されましたら、是非そのその模様と、和やかな皆さんを写されたご様子などを、同窓会事務局までお知らせください。

※お預かりした原稿、写真等は同窓会報発行後、ご返送いたします。

新年会開催



まだ肌寒い二月十八日（土）それでも穏やかな晴れ間の中、約三年間これと言った同窓会の集まりが行われていない中で、久しぶりの会合、新年会が開催されました。

会場は、今まで使用されてきた両国ビューホテル（旧ザ・ホテルベルグランデ）から皆さんも馴染みが深い門前仲町にある、赤札堂深川店の上、東天紅深川店に変わりました。

山田校長先生、河原田先生のお二方をはじめ、各期の同窓生合わせて42人が出席し、盛大な会となりました。

美味しい中華料理に舌鼓を打ち、久しぶりに会う同窓の仲間たちと酒を酌み交わし、和やかな雰囲気の中、会は進んでいきました。

途中68期卒業で、現在はミュージカルを中心に芸能活動されている長瀬可織さんが、素晴らしい歌を中心に、普段の活動の一片を披露してくださいました。また、恒例の各期ごとの新年の抱負や、近況などを語るコーナーがあり、こちらも大いに盛り上がりまりました。

これから、校歌祭や、同窓生の集いなど暫く中止されていた会合や催しが再開いたします。

いずれも多くの方のご参加をお待ちしております。内容に関しましては、会報に同封の校歌祭案内と、次ページの新年会のご案内、また都度の催しに付きましてはホームページにて告知されますので、ご確認ください。

ご不明な点がございましたら、同窓会事務局にお問い合わせください。次ページの奥付に連絡先が記載されております。



河原田先生



三浦会長挨拶

活 動 記 録 (4年度)

No. 1

[illegible]

令和4年度 会 計 報 告

自 令和 4年 4月 1日
至 令和 5年 3月31日現在 (単位 円)

項 目	予 算 額 (A)	執 行 額 (B)	差額(B-A)/(A-B)	備 考
前年度繰越	7,687,144	7,687,144	0	
(収入の部)				
会費(90期)	1,800,000	1,789,120	-10,880	卒業生 179名
運営協賛金	20,000	20,000	0	
事業収入	525,000	318,000	-207,000	
利息他	60	63	3	
収入合計	2,345,060	2,127,183	-217,877	
[支出の部]				
理事・評議員会	150,000	0	150,000	
総会(同窓生の集い)	0	0	0	
新年会	300,000	270,000	30,000	
校歌祭	245,000	0	245,000	
同窓会報	600,000	533,089	66,911	
ホームページ	80,000	99,000	-19,000	
活性化活動費	50,000	0	50,000	
母校部活支援	200,000	196,625	3,375	
就職活動支援	100,000	148,384	-48,384	
母校支援	200,000	328,567	-128,567	懸垂幕の作成他
会合費	20,000	0	20,000	
慶弔費	50,000	0	50,000	
通信費	300,000	370,399	-70,399	
事務・消耗品費	80,000	765	79,235	
雑費	10,000	0	10,000	
東京三商会	600,000	600,000	0	
特別会計予算	200,000	200,000	0	
支出合計	3,185,000	2,746,829	438,171	
次年度繰越	6,847,204	7,067,498	220,294	
(事業収入内訳)				
1 新年会会費	150,000	125,000		
2 「三商同窓会報」広告収入	280,000	193,000		
3 同窓生の集い会費	0	0		
4 校歌祭反省会会費	75,000	0		
5 その他雑務収入	20,000	0		
合 計	525,000	318,000		

特別会計(周年記念事業)

上記のとおりご報告申し上げます。
令和 5年 4月 14日

前年度繰越 1,403,990

会 計 渡 邊 秀 明

一般会計(90期) 200,000
受取利息 12
収入合計 200,012

監査の結果正確である事を認めます。
令和 5年 4月14日

監 事 古 田 勝 一

差引次年度繰越 1,604,002

監 事 三 川 廣 志

令和5年度 事業計画案

- 新型コロナウイルスの影響で今年も活動が制限されてしまう。
- 母校支援については例年通りとする。。

1 定時評議員会

令和5年5月27日(土) 三商大会議室

2 「三商同窓会報」61号の発刊

投稿締切 令和5年5月末日(厳守) 発行 令和5年7月1日予定
今回も広告をたくさん募集する

3 第31回東京校歌祭への参加

日時 令和5年12月3(日)
会場 国立オリンピック記念青少年センター 大ホール

4 新年会

日時 令和6年2月10日(土)
場所 「東天紅」深川店

6 活性化活動

同期会開催のコーディネートに重点を置く

7 支援活動

母校支援(部活動支援、就職活動支援、その他)

9 「公益財団法人 東京三商会」については逐次報告する。

令和5年度

収 支 予 算

自 令和5年4月 1日
至 令和6年3月31日 (単位 円)

項 目	4年度予算額	4年度執行額	項 目	5年度予算額	備 考
前年度繰越	7,687,144	7,687,144	前年度繰越	7,067,498	
(収入の部)			(収入の部)		
会費(90期)	1,800,000	1,789,120	会費(91期)	1,750,000	175名
運営協賛金	20,000	20,000	運営協賛金	20,000	
事業収入	525,000	318,000	事業収入	480,000	
利息他	60	63	利息他	60	
収入合計	2,345,060	2,127,183	収入合計	2,250,060	
(支出の部)			(支出の部)		
理事・評議員会	150,000	0	理事・評議員会	150,000	
総会(同窓生の集い)	0	0	総会(同窓生の集い)	0	
新年会	300,000	270,000	新年会	300,000	@6,000- 50名
校歌祭	245,000	0	校歌祭	210,000	*
同窓会報	600,000	533,089	同窓会報	600,000	
ホームページ	80,000	99,000	ホームページ	80,000	
活性化活動費	50,000	0	活性化活動費	50,000	
母校部活支援	200,000	196,625	母校部活支援	200,000	
就職活動支援	100,000	148,384	就職活動支援	100,000	
母校支援	200,000	328,567	母校支援	200,000	
会合費	20,000	0	会合費	20,000	
慶弔費	50,000	0	慶弔費	50,000	
通信費	300,000	370,399	通信費	300,000	
事務・消耗品費	80,000	765	事務・消耗品費	80,000	
雑費	10,000	0	雑費	10,000	
東京三商会	600,000	600,000	東京三商会	600,000	
特別会計予算	200,000	200,000	特別会計予算	200,000	
支出合計	3,185,000	2,746,829	支出合計	3,150,000	
次年度繰越	6,847,204	7,067,498	次年度繰越	6,167,558	

*(校歌祭予算)

参加費・広告費	60,000
交通費50名@1,000-	50,000
反省会費用20名*5000	100,000
計	210,000

(事業収入明細)

① 新年会会費 ¥3,000- 40名	120,000
② 三商同窓会報広告収入	280,000
③ 同窓生の集い会費 ¥3,000- 60名	0
④ 校歌祭反省会会費 ¥3,000- 20名	60,000
⑤ その他雑務収入	20,000
合 計	480,000

令和4年度特別会計(周年記念事業)		令和5年度特別会計(周年記念事業)	
前年度繰越	1,403,990	前年度繰越	1,604,002
一般会計(90期会費)	200,000	一般会計(91期会費)	200,000
受取利息	12	受取利息	12
収入合計	200,012	収入合計	200,012
支出合計	0	支出合計	0
差引次年度繰越	1,604,002	差引次年度繰越	1,804,014

広告のページ

次号も広告募集中!!

パターン	サイズ (天地×左右)	紙面	料金
S	190 mm × 260 mm	全頁(表4)	50,000 円
A	190 mm × 260 mm	全頁	30,000 円
B	127.5 mm × 190 mm	1/2 頁	15,000 円
C	92.5 mm × 127.5 mm	1/4 頁	10,000 円
D	61.5 mm × 92.5 mm	1/8 頁	5,000 円
E	44.2 mm × 61.5 mm	1/16 頁	3,000 円

当会報は、毎年の同窓会予算に加え、皆様からの広告収入が発送費及び印刷製本費の一部として運用されております。

営利目的ではありませんので、長く料金を据え置き左記の価格で皆様にお願ひしております。

広告原稿に付きましては、当方で作成も可能です。(原稿作成費は無料)

詳しくは同窓会事務局までお問い合わせください。

とばへ
みっま

住所 / 130-0022
東京都墨田区江東橋
4-20-4

TEL / 03-3631-0294

定休日: 不定休

河西紀道 第25期
(墨田区食品衛生協会会長)

手打蕎麦



(墨田区銘品名店会)



細田木材工業株式会社

顧問
細田安治 (19期)



合法木材供給
事業者認定
[輸入協-]



〒136-0082

東京都江東区新木場 2-5-3

☎03-3521-8701

fax03-3521-8708

e-mail: yasuji@woody-art-hosoda.co.jp

https://www.woody-art-hosoda.co.jp/

2020
健康経営優良法人
認定

代表

大石傑一郎

(23期珠算部々長)

てるてるぼうず

リサイクルショップ

曳舟本店 〒131-0032

東京都墨田区東向島 2-14-1
マゾンド大石1階

☎ 03 (3616) 2439 (代) FAX 03 (3861) 0067

自宅 〒111-0051

東京都台東区蔵前 4-28-5
蔵前大石ビル4階

☎ 03 (3861) 0084 FAX 03 (3861) 0067

創業明治四〇年
下町の味を伝えて一世紀
うなぎ

川 勇

高木 利夫
(第三十三期)
元史学部

〒110-0011
東京都墨田区石原3-30-9
TEL: 03-3622-5592
FAX: 03-3622-5592
E-mail: unagiya@com.home.ne.jp

旬の肴
柳
YANAGI

柏 俊太郎 (第35期)

〒136-0071
東京都江東区亀戸 6-23-10
カーサカッシーノ 1F
TEL 03-3682-0033

おしゃれエプロンメーカー
有限会社 篠 崎

取締役会長 篠崎 清 (第22期)

〒272-0021 市川市八幡4-17-33
TEL: 047-334-5027 Fax: 047-334-5432

番号印刷専門 昭和13年1月1日開業
スドウナンバー
31期 須藤 義勝

〒104-0043 東京都中央区湊 2-3-3
Tel. 03-3551-9078 Fax. 03-3553-8486

 株式会社 **エイケン**

相談役 今 泉 清

本社 千葉県船橋市米ヶ崎町729番地
TEL 047(422)0211 (代)
FAX 047(422)0229
携帯 090(3228)6477

31期 レスリング部

有限会社 **みのる不動産**
都知事(14)21090号
公益社団法人東京都宅地建物取引業協会会員

代表取締役 **三 川 廣 志**
(第34期)

■亀戸店 東京都江東区亀戸7丁目11番12号 京葉道路面
TEL (3684) 5851 (代) FAX (3684) 5850
E-mail: mk@e-minor.com

■本店 東京都江東区北砂7丁目4番3号 環状四号面
TEL (3644) 7573 (代) FAX (3640) 2543

関西風お好み焼き
どんどん亭
33期 坂口保夫



森下交差点角 すき屋並び
定休日月曜日 営業時間 17時～23時
電話 **03-3635-4823**
江東区森下2-18-1

(第21期) 平林 慶雄
有限会社 **平林油店**

灯油・軽油・潤滑油・配達いたします
油の事ならご相談ください。

本店・自宅 (03)3644-4487
江東区南砂4-19-13
南砂 S S (03)3644-6161
江東区南砂3-4-5


三商49期
同期会一同
1963年4月～1964年3月生
1982年3月卒



街と住まいと
お客さまをつなぐ

不動産のことならご相談ください
住宅・事業用など
トータルサポート致します

【当社開発事例 イメージパース】
新築分譲住宅 全3棟
大雄開発『クリエーションシリーズ』

(公社)東京都宅地建物取引業協会会員 東京都知事免許(14)第26577号

大雄開発株式会社

代表取締役会長 松岡雄治(第26期)

〒136-0072 東京都江東区大島1-29-6 アプローズ西大島101

TEL:5628-1511 FAX:3636-2292



物件情報満載HP

売買情報 <http://www.daiyukk.co.jp> 賃貸情報 <http://www.daiyukk.com>

『新着物件情報』・『オープンハウス情報』など掲載中です!!

代表社員

荻野弘康 (第二十二期)

税理士法人

荻野会計事務所

経営革新等支援機関

— 経済産業省 —

中小企業、納税者の権利拡充に努めます。

東京都荒川区南千住五丁目二五-十四
〒116-0003
TEL:03-3803-1238
FAX:03-3805-1069
MAIL:zei_ogi@d3.dion.ne.jp

～同級生からのコメント～

昭和29年10月第1回全国高等学校簿記コンクール
に出場団体戦優勝都立三商(荻野・西脇・中川)
個人の部優勝(荻野弘康)

Sugimotokouji

株式会社 杉本好二商店

代表取締役 杉本光男

第26期(卓球部)

〒130-0002 東京都墨田区業平1-17-5

TEL 03-3623-2185

FAX 03-3623-1859

砂利・砂・セメント・砕石
生コンクリート・アスファルト 販売店

公認 不動産コンサルティングマスター

西 邨 昭 一 (第31期)

一般社団法人 千葉県宅地建物取引業協会
公益社団法人 全国宅地建物取引業保証協会千葉本部
専任相談員

〒260-0024 千葉市中央区中央港1-17-3 (千葉県宅建会館)

TEL: 043-241-6671 FAX: 043-245-0866

夢をかたちに・・・



中外徽章株式会社

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-2

TEL:03-3294-3431 FAX:03-3294-3436

<http://www.chugaikisyo.co.jp>

相談役 古田 勝一（第26期）

傘寿から米寿へ

さん

じゅ

べい

じゅ

希望は燃ゆる若き、われら・・・

祝

昭和34年（1959年）なつかしの時計塔が

聳える校舎を472名で卒業した26期生（生存者360名程）は
令和2年～3年に80才の傘寿を迎え。これより先は88才の
米寿へとチャレンジして参ります。

「生涯青春で有り続けたい」との願いから、第26期は
毎年同期会を開催しております。

第26期 同期会会長 古田 勝一